

186

122

醍醐

乳味鈔卷九

薄草紙
初重乙

乳味鈔卷九正誤

一丁左行六

本レ

ハ此レ

四丁左行八

苦難

ハ苦難

廿二丁右行一

説ヲ

ハ説ヲ

卅四丁左行七

陀行羅

ハ陀羅

卅七丁右行八注

不動

ハ不動

卅八丁左行六

然始

ハ然始

四十三丁右行注功

ハ巧

四十四丁右行注成就

ハ成就

四十七丁左行二

成

ハ成

五十五丁左行三

三毒ヲ

ハ三毒ヲ

六十四丁右行八

依テハ

ハ依テハ

同左行六

妙見

ハ妙見

八十一丁右行三

此レ

ハ此レ

八十四丁右行一

今マ

ハ今マ

九十八丁右行四

此レ

此レ

同行六

波ル編

ハ波ル編

同左行十

日ク三

ハ日ク三

九十九丁右行十

水天住

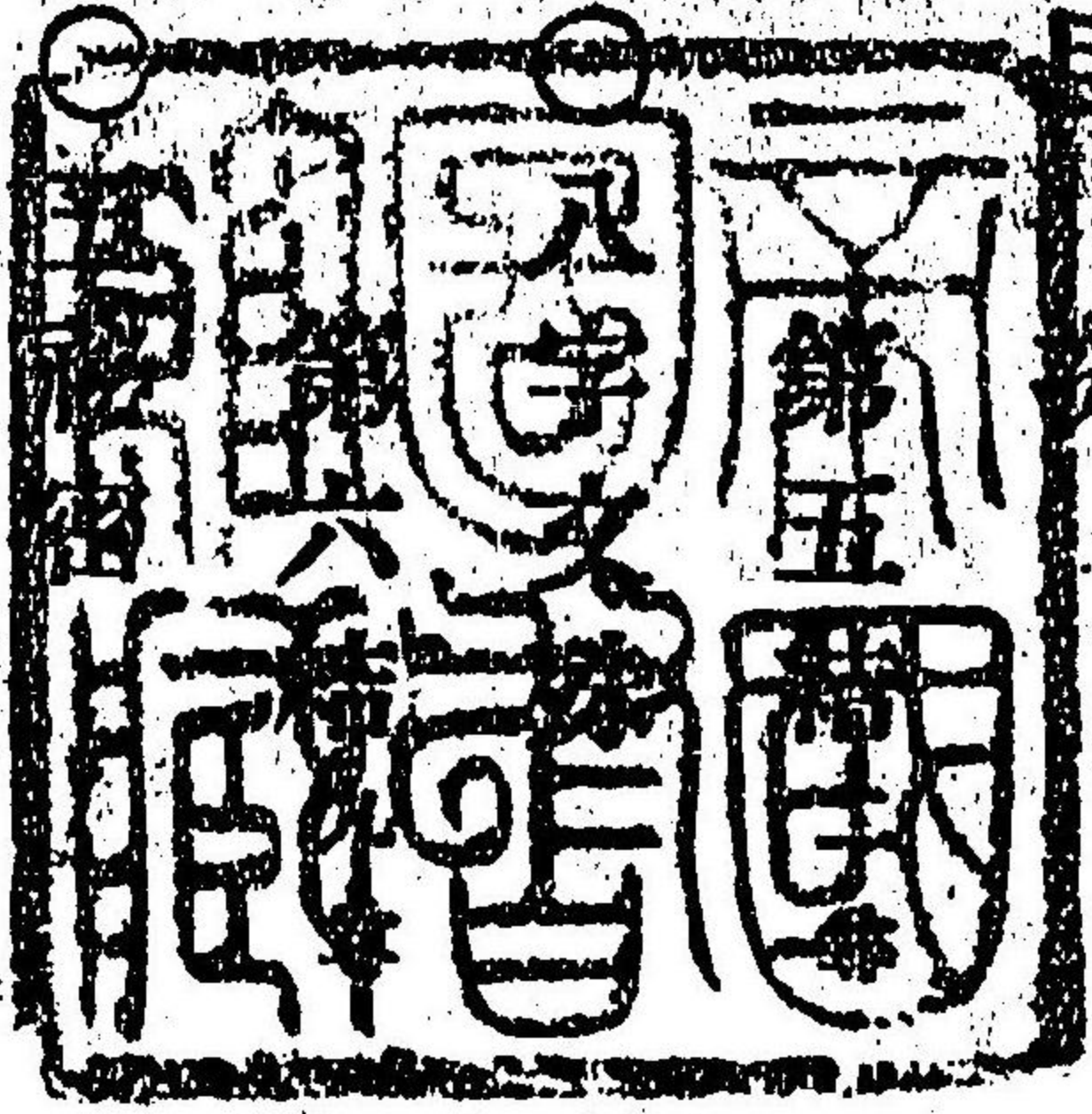
ハ水天住

百四丁左行八

業障

ハ業障

目次



- 普賢
- 延命
- 彌勒
- 隨求

- 五字文殊
- 虛空藏
- 普賢延命
- 地藏
- 勢至



第七結八母

法苑珠林初重乙目次

- 不動
- 軍荼利
- 金剛夜叉
- 烏瑟沙摩
- 降三世
- 大威德
- 愛染
- 金剛童子
- 北斗
- 屬星
- 炎魔
- 十二天
- 聖天
- 施餓鬼
- 毗沙門
- 水天
- 地天
- 吉祥天

第八結十尊

醍醐 乳味鈔卷九

○薄草紙初重

○第五結

○八字文殊此

妙吉祥ト翻ス、

○大聖妙吉祥菩薩祕密八字陀羅尼修行曼

荼羅次第儀軌法一卷 淨智金剛ノ譯

○文殊師利寶藏陀羅尼經 菩提支ノ譯

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ總シ

テハ除難息災天變惡夢別シテハ求智ニ修

ス、

薄草決ニ曰ク御口ニ曰ク此法ハ諸文殊ニ
通シテ修ス、又初心ノ行者五十萬返ヲ滿セ
ンカ爲ニモ亦此次第ヲ用ユ

○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、原ト八
字ノ軌以下ノ說ニ依ルナリ、須彌山上此
ハ器界觀ヲ略シテ明ス、本レ本淨ノ菩提心
ナリ、有心字略出經第一卷右五ニ五種ノ
座ヲ明カス中ノ師子座ノ種子ナリ、而シテ
經ニハ具サニ心阿阿ノ三字ヲ出ス、今ハ略
ナリ、成師子此レハ勇勤ノ菩提心ニシテ

即チ八字文殊ノ三昧ナリ、洞口ニ曰ク此菩
薩ハ諸佛ノ師ナレハ此レ無畏ノ義ヲ示ス
有瞞字天日經ニ曰ク文殊種子所謂瞞字
門此レ本說ナリ身色黃金以下三行ハ本軌
一二十ノ說ナリ、八智尊淺略ノ義ニハ文殊
ノ八大童子ニシテ、八髻ノ中ニハ八佛形ト
ス、深祕ノ義ニハ文殊ハ即チ胎藏大日トス、
故ニ八智トハ即チ八葉ノ尊ナリ、胎藏大日
利生ノ爲ニ世ニ出興シ給フ、之ヲ名ケテ文
殊ト云フナリ、操持智劍般若ノ智慧ヲ現

ハス、立五股杵、右ノ手ノ利劔ハ金界ノ智
左ノ手ノ蓮花ハ胎藏ノ理ニシテ、是則チ理
智不二ノ祕義ヲ表ス、三重圍繞本軌以下
ニ具説アリ、四大明王降三世無能勝大威
德馬頭ナリ、此レ文殊曼荼羅ノ四隅ニ住ス
ル所ナリ、十六大天八方天ト同后トナリ、
○讚別德ノ讚ハ本軌丁十七ニ出ツ、若シ之ヲ
略スル時ハ蓮花部ノ通讚ヲ用ユルナリ、
○本尊加持印相文ノ如シ、此印ヲ寶藏陀羅
尼經四十二ニハ大精進ノ印ト云フ、言モ亦同

經同處ニ説ク、本軌二丁十二ニ曰ク、文殊根本、
從師密受之、此レ祕印ナル故ニ斯クハ云フ
ナリ、口傳二大二頭ノ間ヲ師子ノ口ト爲
シテ、行者施主ノ煩惱業障不祥怨家等ヲ噉
食スト觀ス、是故ニ風空ノ中間ヲ離隔シテ
口ノ形ニ作スナリ、
○散念誦八大童子ニハ胎藏文殊院ノ言
ヲ用ユルナリ、降三世ハ曼荼羅四隅ノ上
首タル故ニ之ヲ擧クルカ、
○五字文殊法

○金剛頂瑜伽文殊師利菩薩法一品譯不空師

來請

○金剛頂瑜伽經文殊師利菩薩儀軌供養法

不空譯

○金剛頂曼殊師利菩薩五字心陀羅尼品智金

譯ノ

○五字陀羅尼頌不空譯

○金剛頂超勝三界經說文殊師利菩薩說祕

密心眞言不空譯

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ深智

祈求ニ修ス、

問日本尊ノ立名如何 答五字トハ眞言及

ヒ首髻ニ約シテ稱テ立ツ、八字一字復タ之

ニ同シ、然ルモ或ハ首髻ハ未タ必スシモ然ラ

サルカ、何トナレハ八字六字等八髻六髻之

レアルニ非サル故ニ薄草口決取意

問曰此尊ノ功德如何 答薄草決ニ曰ク私

日文殊トハ亦ハ曼殊ト云フ、具サニハ此ニ

ハ妙吉祥ト云ヒ、或ハ妙徳ト名ケ、或ハ妙音

ト稱ス、具サニハ大日經疏ノ中ニ辯スル如

シ、凡ソ此尊ハ諸佛ノ深智三身ノ妙惠、說法
利生ノ德遍ク十方ニ及シ、癡ヲ除キ惠ヲ授
ルノ用廣ク九界ニ被シム、知ルヘシ衆聖ノ
帝師諸佛ノ父母ナリ、三世覺母ノ稱職トシ
テ而シテ之ニ依ルノミ、之ニ由テ智惠ヲ祈
ンカ爲ニハ專ラ此法ヲ修スヘキナリ、又五
字眞言ノ功能ヲ説テ曰ク、文殊師利法品ニ
曰ク、(又念誦數滿、一俱脫離諸苦難、滿二俱脫
遍五無間等、一切罪障永盡、無餘三俱脫遍證
悟一切諸三昧門、四俱脫遍獲大闍持、五俱脫

遍成阿耨多羅三藐三菩提、)文殊說祕密心眞
言ニ曰ク、(若誦一遍能除行人一切苦難、若誦
二遍除滅億劫生死重罪、若誦三遍三昧現前、
若誦四遍總持不忘、若誦五遍速成無上菩提、
乃至但心信受經十六生次成正覺、)不空ノ軌
ニ曰ク、(阿羅跋者曩者是滿一切願、義何以故、
阿字者樂欲菩提、義羅者染著不捨衆生、義跋
字者第一義諦、義者字妙行、義曩字者無自性、
義樂欲菩提不捨衆生、第一義諦中行願修
習諸法、無有自性、若如此修滿一切願、諸願中、

證如來及執金剛不來自得

○道場觀野月祕鈔各々今ニ同シ、此觀ハ原
ト文殊師利供養法丁九並ニ五字陀羅尼頌丁五
ノ說ニ依ル、有白玉壇法花玄贊ニ曰ク頗
梨迦此ニハ水精ト云フ、亦ハ水玉或ハ白玉
ト云フ、訛ニ頗梨ト云フ、斯說ニ依レハ白玉
トハ水精所成カ、壇此レニ二說アリ洞口
ハ息災ノ壇ト云ヒ、或師ハ自心ノ淨菩提心
ト云フ、師子座此レハ如來ノ座ナリト雖
モ、文殊ハ普ニ諸佛ノ師ナルノミナラス、復

タ智慧門ノ主宰ナル故ニ之ヲ以テ座トス、
有曇字文殊師利供養法ノ說ナリ、成智
劍此尊ハ大空ヲ以テ體トス、空ハ諸物ヲ融
スルコト利ニシテ障礙アルコトナシ、今ノ
智劍モ亦諸物ヲ融スルコト、喩ヘハ虚空ノ
障礙ナキカ如シ、故ニ之ヲ以テ三形トスル
ナリ、成文殊師利菩薩以下尊形ノ持物ハ
五字陀羅尼頌以下丁ノ說ナリ、但シ三十二相
八十種好ノ文ハ儀軌ニナシ、此相好ハ是レ
亦如來ノ相好ナリト雖モ、前陳ノ如ク文殊

ハ諸佛ノ師ナルカ故ニ斯ク云フナリ、光
所照處此レ諸佛ノ智慧ナリ、此光ノ及フ處
ハ一切衆生、凡夫ノ身ヲ轉シテ而シテ佛身
ト成ルナリ、文殊法門トハ五字ノ眞言ヲ
以テ法門トスル義ナリ、而シテ此法門即チ
眷屬ナリ、私日光所照ノ器ト衆生ト正覺ト
ノ三世間ハ皆是レ文殊心内ノ曼荼羅ニシ
テ即チ眷屬ノ義カ、

○本尊加持根本印言俱ニ五字陀羅尼頌
ト六ニ出ツ、釋法泚娜澹五字ノ功能ニ由テ

般若甚深ノ智ヲ得ルナリ、

○正念誦唵釋法泚娜澹ノ言ヲ用ユ、

○散念誦白衣大威德ノ二尊ハ、次テノ如
ク蓮花部ノ部母ト忿怒トナリ、結界ニハ馬
頭ヲ用井、而シテ今大威德ヲ出スコトハ互
顯ノ義カ、五字陀羅尼頌丁四ニハ降三世ヲ舉
ク、但シ今ハ通用ヲ出スカ、

○讚

問曰本尊ノ別讚ヲ舉ケサルコト如何 答
用否一準ナラス、元祖ノ口

品通用文殊

○大聖曼殊師利童子五字瑜伽法不空

○文殊室利根本大教王金翅鳥王經空不

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ智慧門ニ修ス、

洞口ニ曰ク此法ハ録外ナリ、寛濟ノ奥書ニ

曰ク以隆助之本、書之隆助ハ行樹院ナリ

御口ニ曰ク此法ハ諸文殊ニ通シテ修ス、初

心ノ行者五十萬遍ヲ滿セムカ爲ニ又之ヲ

用ユ、但シ未タ十八道ヲ受ケサル人ハ之ヲ

除ク、

○種子瞞八字文殊ノ如シ、

○三形五字文殊ノ如シ、

○道場觀野鈔野月ト大同ナリ、四種標幟

四種ノ持物ナリ、金翅鳥ハ文殊ノ化身、無盡

惠等ハ各々智慧優勝ノ故ニ此ヲ眷屬トス、

○本尊加持五字文殊ノ如シ、

○散念誦此レニ諸眞言ノ少キハ、洛双ヲ行

スルカ爲ナリ、

以上第五結了

○第六結

○五・祕・密・法

○五祕密儀軌不空ノ譯大師請來此ニ廣略

略本ニ會シテ即チ金剛頂第六會ノ略本ナリ

○釋大樂金剛薩埵五祕密口決金智ノ譯宗叙請來

此法ハ前記ノ二本ヲ所依トシテ、用テ敬愛或ハ滅業障重罪ニ修ス、

問曰五祕密ノ立名如何 答祕密教トハ眞言ノ總名ニシテ、必ラス五祕密ニハ限ラス、金薩ヲ中央ニ安シ慾觸愛慢ノ四菩薩之ヲ

圍繞スルコトハ、染淨不二生死涅槃一體ノ

義ヲ表ス、是ヲ祕密ト名ク、此義復々密教ノ

總德ナリ、此總德ヲ此尊ニ就テ現ハス故ニ、

是レテ祕密ト稱ス成賢ノ口取意ノ

問曰本尊ノ曼荼羅ハ何種ヲ用ユルヤ 答

五祕密ノ曼荼羅ヲ用ユ、是即チ衆生本具ノ

曼荼羅ナリ、而シテ是レニ三祕密アリ、謂ク

一ニハ法體祕密、謂ク五尊同一蓮花同一月

輪ニ住シテ、而シテ現ニ法樂ヲ受クルヲ云

フ、二ニハ衆生祕密、謂ク一切衆生各各ニ五

祕密ヲ具足スト雖モ、無明ノ爲ニ覆ハレテ
自ラ之ヲ覺知セサルヲ云フ、三ニハ如來祕
密、謂ク此法ハ當相即道ノ深義ナル故ニ爾
名クナリ、尙ホ縷說ハ理趣釋ノ如シ、
問曰前所出ノ理趣法ト此法トノ差別如何
答理趣經ノ法ハ一尊ヨリ四尊ヲ出生ス
ル義ニシテ、今ハ四尊一尊ニ歸入スル義ナ
リ、之ニ由テ理趣經ノ法ハ五尊各別ヲ宗ト
シ、今ハ五尊一體ヲ旨トス、是故ニ同一月輪
同一蓮花ニ住スルナリ、

○種子薩怛𑖀𑖂 薩怛トハ金薩因位菩提心
ノ體、𑖀トハ大日ノ種子ニシテ果滿成正覺
ノ德ナリ、此二種合シテ一ノ種子ヲ成シテ、
而シテ因果不二染淨一體ノ旨ヲ示スナリ、
○三昧耶形五股今ハ五尊ナリト雖モ、此レ
ハ金薩一體ノ上ノ功德ナルカ故ニ、一種ノ
五股ヲ用ユ、而シテ五股ノ印ハ五智又ハ五
部ニシテ、是即チ五祕密ヲ表ハスナリ、
○道場觀野鈔野月今ニ同シ、
各戴五佛寶冠、此ハ五尊各々五智ヲ具スル

コトヲ云フ、此寶冠ヲ勝初瑜伽儀軌、十九並ニ大樂金剛薩埵儀軌、四ニ金界ノ五佛トス、或說ニ胎藏ノ五佛ト云フハ不可ナリ、中央坐^{ウツマ}金剛薩埵^{キョウゴウサツヂ}、理趣經義述ニ曰ク、右ニ五股金剛ヲ持ス是レ五智ノ義ナリ、拳ヲ轉シテ外ニ向フハ衆生ニ示スナリ、左ニ金剛鈴ヲ持ス是レ適悅ノ義ナリ、此ヲ腰ノ左ニ置クハ大我ヲ表ス、

薄草決ニ五尊ノ持物等ヲ問答シテ曰ク、問五尊ノ印相及ヒ持物ノ表示如何、答其表示

ハ大菩提心金薩、慾觸愛慢ヲ以テ眷屬トス、慾菩薩ハ弓箭ヲ持シテ、凡位ノ大菩提心ノ慾ヲ以テ、佛果菩提ノ妙果ヲ射取ルコトヲ表ス、觸菩薩ノ金薩ヲ抱クコトハ、既ニ大菩提ノ果ヲ射取ルカ故ニ、堅ク之ヲ抱持シテ散失セサラシムル義ナリ、愛菩薩ノ摩竭魚幢ヲ持スルハ、大菩提心ヲ堅ク抱持スルカ故ニ、高ク三有ノ城郭ヲ出テ、菩提ノ功德ヲ食噉スルノ表相ナリ、慢菩薩ハ設ヒ菩提心アリト雖モ、其心卑劣ナル者ヲハ未タ以

○次大獨股印。本軌丁二右十ニ出ツ、此レ五祕密三摩耶ノ印ナリ、此印ハ一實實相ノ義ヲ現ハスナリ、言ハ同丁九ニ出ツ、即チ十七尊ノ總呪ナリ、

○次五尊羯磨印。明此印明ハ本軌以下丁ニ説ク所ニシテ、全然理趣法ニ同シ、

本軌以下丁左ニ功能ヲ説テ曰ク「羯磨功能觀成、彼彼尊、又三昧耶印言ノ功能ヲ説テ曰ク、「金剛薩埵印言、由結此印、誦眞言、故神通壽命威力相好等同、金剛薩埵、愆金剛、由結此印、故

能斷微細無明住地煩惱、觸金剛、由結此印、故能拔濟護持一切受苦衆生界、皆獲大安樂三摩地、愛金剛、由結此印、故獲得大悲解脫、憐愍一切有情、猶如一子、皆起拔濟安樂心、慢金剛、由結此印、故獲得大精進波羅蜜、刹那能於無邊世界一切如來所作廣大供養、」

○禮佛。愆慢二金剛ノ梵名ニ就テ不審アリ、薄草決ニ之ヲ辯ス、又此レヲ押紙ニ載ス次第アリ、

○結界召請撥遣等ハ普通ノ印言ヲ用ユル

ナリ、

品。虛空藏法。梵ニハ阿迦捨藥婆ト云フ、

○大虛空藏念誦法一卷空不

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ福德
智惠音聲ノ三種ニ通修ス、

問曰此尊ノ立名如何 答薄草決ニ曰ク「虛
空ハ是レ不可破壞ノ義ニシテ即チ三輪清
淨ノ義ナリ、身口意輪ト云フ」三藏トハ能藏所藏能
生ノ義ナリ、謂ク能藏トハ能ク萬徳ヲ含藏
スルカ故ニ、所藏トハ此萬徳煩惱ノ爲ニ覆

藏セラル、故ニ能生トハ彼ノ萬徳此尊ノ
威力ニ依テ能ク出生スルカ故ナリ、

○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、原ト石
山道場觀集ニ出ツ、地上即チ金龜ナリ、
寶山トハ須彌山ナリ、有ハ師子座、五佛各
各列座ノ時ハ南方ハ馬ナリ、一尊別立ノ時
ハ師子座ヲ用ユ、是レ諸佛通用ノ座ノ故ナ
リ、七寶蓮花當本尊ハ寶部ノ故ニ特ニ寶
蓮ヲ座トス、

當本尊ハ大師御入唐以前既ニ道慈勤操ヨ

リ御相傳セラル、而シテ此傳ノ尊形儀軌ノ
說ニ稍々同シ、彼軌ニハ左ノ手ニ蓮花ヲ把
リ花ノ上ニ寶珠ヲ安ス之ヲ異トス、
○本尊加持根本印「印言俱ニ念誦法」ハニ出
ツ、但シ軌ニハ是レヲ三摩耶ノ印ト云フ、而
ルニ今根本ノ稱ヲ立ツルコトハ石山ニ依
ルナリ、本軌ニハ内縛ヲ印母トス、又眞言ノ
終ノ唵ヲ吽ニ作ス、今ノ印ノ内縛ト眞言ノ
唵字トハ口傳ノ說ナリ、

○又印言「胎藏虛空藏院ノ印言ナリ、但シ本
次第ノ印文ハ用井ス、押紙ノ說ニ依ルナリ、
此印ハ伊字ノ三點ノ形ニシテ即チ三辨寶
珠ナリ、

○又印「一印トハ求聞持儀軌」ニ出ツル
印ナリ、印ノ功能及ヒ眞言モ出セリ、

○散念誦「寶生ハ寶部ノ主尊、軍荼利ハ
寶部結界ノ尊ナル故ニ、此等ノ尊ヲ舉ルナ
リ、

○禮佛「南無虛空藏菩薩ノ句ヲ加フヘシ、

○讚「南方ノ讚ヲ用ユルナリ、

○普賢菩薩法梵ニハ三曼跢跋捺邏ト云フ、
○大樂金剛薩埵修行儀軌中ノ剛頂第八會ノ説
此法ニ儀軌多シト雖モ、本流ハ前記ノ儀軌
ニ依テ、用テ滅罪ニ修ス、

問曰普賢ノ得名如何 答大疏ニ曰ク「普者
遍一切處義、賢者最妙善義、香象ノ釋ニ曰ク
「德法界ニ周キテ普ト曰フ、淨ヨリ善ニ順ス
ルテ賢ト稱ス」

問曰普賢ト金薩トノ別如何 答薄草決ニ
曰ク「御口決ノ意ニ曰ク（普賢ト金薩トハ理

智ノ不同ナリ、故ニ普賢ヲ法界真如ノ體ト
云フ、金薩ハ智ナリ、故ニ五祕密儀軌ニ（云、金
剛薩埵智身）若シ此ヲ衆生所具ノ佛性ニ約
スレハ、則チ理ト行トノ二ニシテ、佛性ハ則
チ真如本覺ノ體ナリ、故ニ菩提心論ニ（一切
有情皆含如來藏性）ト云フ、花嚴經ニ曰ク（無
一衆生而不具足真如智慧）私曰此中ノ真
如トハ理佛性普賢ナリ、智慧トハ行佛性金
薩ナリ」

○種子惡洞口ニ曰ク普賢ト大日トハ因果

不二同體ノ故ニ惡字ヲ用ユ「普賢延命ノ口
決ニ曰ク「八葉座上有命字字惡成五股杵「普賢
ハ彼ノ普賢延命ノ本身ノ故ニ、彼ノ種三ヲ
用ユルカ、此尊ハ菩提心ノ體ナリ、故ニ菩提
心ヲ以テ第一命トス、大日經第五卷六十二
曰ク「阿字第一命」之ヲ思考スヘシ、或ハ吽
石山トハ道場觀ヲ指ス、吽字ハ則チ金剛部
ノ通種子ナリ、當本尊ハ金剛部ノ故ニ之ヲ
用ユ、或ハ閻此レハ胎藏中臺八葉所居ノ尊
ノ種子ナリ、

以上三說ノ中本流ハ種子ハ惡三形ハ五股
ヲ用ユ此レ相傳ノ說ナリ、

○道場觀此觀ハ石山ニ憑ル、但シ少異アリ、
右手持五智金剛杵等播鈔ニ曰ク「右ノ手
ノ五股ハ衆生本有ノ五智ヲ表ス、左ノ手ノ
般若ノ鈴ハ彼ノ本有在纏ノ五智ヲ驚覺シ
テ、無明長夜ノ睡眠ヲ醒寤スル表示ナリ」
乘白象王百象ハ金剛部ノ座ナリ、而シテ普
賢ハ則チ金剛部ノ主ナル故ニ此座ヲ用ユ、
白象ハ諸獸ノ中ニ於テ力量最モ強健ニシ

テ、堅固無動ナル故ニ以テ此ヲ座トス、八
金剛妃之ヲ釋スルニ二說アリ、元祖並ニ近
代ノ口決ハ此ヲ八供養トス、或師ノ說ハ慾
觸愛慢ト、春花夏香秋燈霜塗トス、普賢金剛
薩埵儀軌六ニ八金剛妃ノ外ニ嬉嫺歌舞ヲ
舉ク、之ニ由テ見レハ或師ノ八供養ヲ用井
スト云フ說宜キカ、

○本尊加持根本印印言共ニ普賢金剛薩埵
ノ軌三ニ出ツ、印相文ノ如シ、

○又印言外五股印言各々第二傳密軌宗本取

ニ載ス、言ハ金剛界賢劫十六尊ノ中ノ普賢
ノ言ナリ、但シ第二傳密軌ニハ五股ニ内外
ヲ言ハス、又眞言ニ唵字ナシ、洞口ニ曰ク外
五股ハ金界、惡ハ胎藏ニシテ此レ不二ノ義
ナリ、

○又印言胎藏祕密八印ノ中ノ印言ナリ、大
十七卷洞口ニ曰ク二大指ハ水瓶ノ形相ニ
シテ、此レヨリ大悲ノ智水ヲ灑キ、一切衆生
ニ施與スト觀スヘシ取

○散念誦阿闍ハ金剛部ノ主、降三世ハ結

界ノ尊ナリ、

○讚別德ノ讚ハ普賢金剛薩埵ノ軌ニ出ツ、

○字輪觀本尊ノ梵號ヲ用ユ、

○密號三號共ニ義操ノ集ニ出ツ、普攝ハ

金界賢劫ノ十六尊ノ中ニ眞如ハ胎藏八葉

ニ出ツ、

○普賢延命法梵ニハ縛日羅謨伽三摩耶ト

言フナリ、

○金剛壽命念誦法不空ノ譯
大師請來

○金剛壽命陀羅尼念誦法此軌
十帖
華子
大師
ノ中
ニ

アリ、即チ金智不
空ニ師ノ譯ナリ

○佛說一切如來金剛壽命陀羅尼經一卷金

○一切如來壽命陀羅尼經法一卷不

○普賢延命最勝陀羅尼經

○普賢延命口決

此法ハ前記ノ經軌ヲ所依トシテ、用テ增益
延命ノ二種ニ修ス、

問曰延命ト普賢延命トノ同異如何 答薄

草決ニ曰ク御口ニ曰ク兩法此レ同法ナリ、

但シ本尊ハ異ナリ、之ニ由テ二尊同シク壽

命陀羅尼經及ヒ同軌ヲ用ユ私曰不空ノ軌
ニ當觀喻字乃至成大金剛壽命菩薩延命菩薩
又同軌ニ曰ク喻字是普賢延命種子也故ニ
知ンヌニ尊別ナリト雖モ眞言儀軌等同ナ
ルカ故ニ一ノ經軌ノ中ニ交ヘ譯スルカ例
セハ彼ノ天台ノ前後兩番ノ經異ナリト雖
モ兩番五時ノ經各々交ヘ譯シテ一部トス
ルカ如キカ問ニ尊各別ノ方如何答御口ニ
曰ク實體ヲ論スレハ則チ四尊同體ナリト
雖モ分相ニ約スレハ四種自カラ差別セリ、

謂ユル金薩ト普賢トハ次テノ如ク理智ノ
二身ナリ此レ先ニ注スルカ如シ延命ト普
賢延命トハ次テノ如ク金薩ト普賢トノ所
變ナリ本身既ニ理智末身隨テ又應ニ兩用
ナルヘシ私曰理智各々體用アルカ故ニ之
ヲ開ヒテ四尊トシ用テ以テ體ニ歸スレハ
唯タ理智ノ兩尊ナリ理智ヲ合シテ而シテ
一心ニ攝スレハ大日一尊ナリ乃至廣說
○種子喻洞口ニ曰ク此レニ涅槃點ヲ加フ
ル是レ深祕ナリ謂ク不生不滅大樂金剛身

ニ歸入スル義ナリ、然正シク唱フル時ハ
涅槃點ヲ呼ハスシテ單ニ喩ト讀ムナリ」取
○三昧耶形甲冑金智不空合譯ノ軌ノ説ナ
リ、此レ有漏ノ依身ヲ全フシテ、而シテ無漏
常住ノ身ヲ得ル義ナリ、

○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、原ト玄
祕鈔ニ依ル、玄祕ハ普賢延命經及ヒ同口決
ニ憑ルナリ、須彌山本淨ノ菩提心ヲ表ス、
五千群象五千ハ五蘊ニ配ス、即チ一蘊ニ
一千ツ、アリ、而シテ此五蘊ヲ合スレハ則

チ五千ナリ、負一大金剛輪、此輪ハ即チ十
二因縁ノ輪ナリ、洞口ニ曰ク、此レ本尊堅固
金剛ノ義ナリ、有四佉字、佉字ハ來去ノ義、
來去ハ則チ生死ノ義ナリ、成四大象、此レ
生老病死ノ四相ナリ、而シテ此象ニ三頭四
頭ノ異アリ、天台家ハ普賢延命經ノ説ニ依
テ三頭ト習フ、東寺家ハ金智ノ口決ニ依テ
四頭トス、三四ノ兩説各々其由アルナリ、
以鼻卷獨股杵、薄草決ニ曰ク、獨股ハ此レ須
彌山ナリ、無熱池ノ邊ニ大象アリ、帝釋天修

羅ト戰フ時彼ノ象ニ乗ル、象大山ヲ拔イテ
修羅ノ軍ヲ打破ス、此意ハ大誓ノ甲冑ヲ被
ツテ天魔惡類ヲ降伏シテ、三世常住正覺ヲ
成セムカ爲ニ彼ノ象ニ乗ルカ、或師曰ク獨
股ハ一實相ナリ、四相モ本來常住ナリト覺
知スレハ、一實相ノ智現ハル、ナリ」各具
六牙、此ハ六煩惱ナリ、六根本ノ煩惱ニ依テ
生死ニ輪回ス、是則チ生死ノ因ナリ、向
外方立、此レ生死ヲ出過スルコトヲ現ハス、
有四大天王誓護世界、四大天王各々法ヲ説

ヲ助ク、四大天王トハ即チ四智ナリ、娑婆ノ
冥海ヲ轉シテ寂光淨土ト成ス、故ニ誓護世
界ト云フ、或ハ一切衆生ノ命根ヲ鎮護スル
ナリ、成千葉大寶花王、等此レハ娑婆即寂
光ノ義ヲ現ハス、又此レヲ千里馱心トシ、次
下ノ圓明淨月輪ヲ質多心トス、成三世常
住、金剛壽命薩埵智身、卅七尊及ヒ三世ノ三
千佛ヲ一身ニ蒐集シテ、三世ノ佛身同シク
現在ノ一身ニ在ルカ故ニ、三世常住等ト云
フナリ、薄草決ニ續説アリ、其形如滿月童

子。此レニ二說アリ、一ハ十五六歳童形ノ、十
五夜ノ満月ニ類似スルヲ云フ、一ハ本尊ノ
面貌満月ノ如クナルヲ云フ、經軌ニ佛菩薩
ノ面貌ヲ満月ニ喩フルコト多シ、但シ二說
ノ中後說ヲ正トス、**黄金色**等金智ノ口決
ノ意ナリ、**具足二十臂**、右方ノ十臂ニハ薩
王愛嬉寶光幢笑鈎索ノ三形ヲ把リ、左方ノ
十臂ニハ法利因語業護牙拳鎖鈴ノ三形ヲ
持スルヲ云フ、

○本尊加持印相文ノ如シ、此印ハ金剛壽命

陀羅尼念誦法_三ノ說ナリ、洞口ニ印ノ功能
ヲ說テ曰ク、此印ハ右ハ佛界ノ五大、左ハ衆
生界ノ五大ニシテ、左右ノ風指ハ命息ナリ、
謂ク佛界ノ命風ヲ以テ衆生ノ命風ヲ抱持
スル意ナリ、大日經五卷ニ風_ハ謂ク佛界生
界ノ命息冥會シテ、而シテ生界ノ壽命ヲ保
持スル義ナリ、取

○又印結印ノ様ハ金界結胄ノ如シ、

本軌ニ印ノ功能ヲ說テ曰ク、由加持此印、故
獲得身如金剛不壞、離諸災橫、見者歡喜、生大

恭敬」

○散念誦」執金剛及ヒ四天王ノ言ハ前ノ
壽命經法ノ如シ、

○讚」洞口ニ曰ク「此讚ハ本軌ニ説カス、又目
録ニモ載セス、此レ八祖相承ノ祕讚ナリ、注
釋ハ即チ句義ナリ、故ニ只觀念スルノミ」
○延命法」此法所依ノ經軌ハ前ノ普賢延命
ノ法ニ擧クル如シ、

此法ハ增益延命ノ二種ニ修ス、
○道場觀」野鈔野月各々今ニ同シ、有千葉、

寶蓮臺金智ノ口決ニ出ツ、是レ娑婆即花藏
ナルコトヲ表ス、有喻字」不空ノ軌ノ説ナ
リ、喻字ハ乘不可得ノ義ニシテ即チ運載ヲ
義トス、故ニ之ヲ以テ種子トス、成甲冑形」
金智不空二師ノ軌ニ依ルカ、此レ無常遷流
ノ惡鬼ヲ防ク表示ナリ、成延命菩薩」最勝
陀羅尼經ノ説ニ同シ、二手ノ持物ハ金薩ノ
三形ナリ、此尊ハ即チ薩埵ノ所變ナルカ故
ニ此レヲ三形トス、而シテ前ノ普賢延命ハ
二十臂ニ三十七尊ヲ具シ、當本尊ハ二臂ニ

三十七尊ヲ具ス、謂ク右ノ手ノ五股ハ三十
七智ノ初ノ金薩ニシテ、左ノ鈴ハ三十七尊
ノ終ノ鈴菩薩ナリ、此レ初後ヲ舉ケテ以テ
中間ヲ現ハスナリ、

○本尊加持前ノ普賢延命ノ印ノ如シ、此餘
召請結果字輪觀正念誦散念誦等都ヘテ前
ノ如シ、此レ彼此同法ナルカ故ナリ、但シ彼
ハ大法ニ準シ此ハ小御修法ナリ、蓋シ此レ
ヲ異トス、

○散念誦 讀經前ニハ此レテ大金剛輪ノ

先キニ出シ、今ハ一字ノ後ニ出ス此レ兩說
ナリ、但シ常ニハ大金輪ノ前ニ用ユルナリ、
○地藏菩薩法梵ニハ不_レ可_レ不_レ作_レト云フ、

此尊ニ儀軌多クアリト雖モ本流ニハ依用
セス、今ハ大日經並ニ同疏及ヒ四部ノ軌等
ノ中ニ、當本尊ノ印言ヲ説ク所ヲ所依トシ
テ、用テ滅罪福德ノ二種ニ修ス、

薄草決ニ地藏儀軌ヲ引テ當本尊ノ偉徳ヲ
掲ケテ曰ク「若欲供養者 安置菩薩像 向
面西持誦 燒香散時花 供養慈悲尊 及

無量壽佛、現世得福利、後世生極樂、持
 念心呪者、受人供、無罪、誦持神呪者、具
 足輪王寶、常見地藏者、不受定業報、常
 聞地藏者、不染百萬病、結誦根本印、速
 得無上道、一切佛菩薩、常當來守護、隨
 意能奉事、常誦神呪者、摧伏諸魔軍、供
 養地藏者、成就一切願、此菩薩本願、不
 簡淨不淨、當念一切時、當獲得安穩、當
 念急難中、消除諸障難、私曰此文ニ準セハ
 除病所望等ヲ兼ヌルカ、厥レ鷲嶺ノ月隱レ

テ一代馳ルカ如ク、龍花ノ雲暗フシテ三會
 猶遙ナリ、佛前佛後ノ人天若シ地藏方便ノ
 カニ非スンハ争テカ得脱ノ期アラム、之ニ
 因テ如來懇勸ノ付屬ハ獨リ他ニ勝クレ、衆
 生濟度ノ利益偏ニ此尊ニ在ルナリ、故ニ本
 願經ノ下卷ニ曰ク、現在未來天人衆、吾今
 懇勸付屬汝、以大神通方便力、勿令墮在
 諸惡趣、本地付屬決不誤、末代男女誰絶
 望、
 次ニ得名ヲ釋シテ曰ク、地ハ萬物ヲ生シ藏

ハ衆寶ヲ収ム、此菩薩ハ福智ノ二徳ヲ以テ
衆生ニ施コスコト彼ニ似タリ故ニ爾云フ、
若シ法ニ約セハ地トハ菩提ノ大地、藏トハ
無盡莊嚴藏ナリ、此菩薩ハ濁世ノ導師トシ
テ、而シテ一切衆生無盡莊嚴藏恒沙ノ已有
ヲ觀シテ、彼ヲシテ開發セシムルカ故ニ地
藏ト云フナリ以上愚按ナリ指南
○種子訶此レハ真言ノ初ノ字ナリ、蓋シ三
乘ノ因ニ約シテ之ヲ用ユルカ、
○三昧耶寶幢天師ノ胎藏普禮三五次第ニ

ハ旗ヲ用ユ、今ハ南方ノ幢菩薩ト同體ト習
フ故ニ幢ヲ用ユルカ、

○道場觀石山ニ依ルカ、注蓮花上有幢祕
藏記ニ曰ク、手執蓮花、上有幢幡此文ニ依ル
カ、内祕菩薩行、外現聲聞形、此文ハ不空ノ
軌ニ依ル、聲聞出家形ハ三界ヲ出離スル所
ノ相ナリ、之ニ由テ娑婆出現ノ時ハ此形ヲ
示シテ、斯界ノ衆生ヲシテ出離セシムル表
示ナリ、右手施無畏等此文ハ無畏不空二
師ノ軌並ニ祕藏記高雄曼荼羅ノ圖等ニハ

異スルナリ、不空ノ軌ニ曰ク左手持寶珠、右
執持錫杖、無畏ノ軌ニハ左手持盃花形、右手
施無畏、又曰ク復作大士像、頂著天冠、乃至左
手持蓮花莖、右手如前、然レハ今ノ文ハ右ノ
手ハ無畏ノ軌ニ依リ、左ノ手ハ不空ノ軌ニ
憑ルナリ、不空ノ軌ニ右ノ手ニ錫杖ヲ執ル
ハ内祕菩薩ノ行、六環ハ則テ大乘ヲ示ス左ノ手ノ
寶珠ハ外現是聲聞ヲ顯ハスナリ、今ノ施無
畏ノ手ハ、光明ヲ放ツテ衆生ノ怖畏ヲ除ク
故ニ智ニ相當ス、左ノ寶珠ハ福智ノ二嚴ナ

リ、

○本尊加持根本印、此印ヲ根本ト爲スコト
ハ石山ニ依ルナリ、金智ノ軌モ亦同名ヲ稱
ス、印言各々廣大ノ軌、丁十右二並ニ石山七集ノ
道場觀集ニ出ツ、

青龍儀軌中卷丁十右八ニ眞言ノ功能ヲ説テ曰
ク「曩莫三曼多沒馱南訶訶訶三乘ノ因、曰ク是レ
尾娑摩曳希有ナリ、一切有情ハ常ニ我相種
種ノ煩惱アリ、裁ニ若シ眞言ヲ念
ヲ希有トス、亦甚ク除フル、此レ」

洞口ニ印ノ功能ヲ説テ曰ク「二中指ハ福智

ノ二嚴ナリ、即チ二中ヨリ福智ヲ出生シテ、
一切衆生ニ授與スル義ナリ」

○又。印言各々大疏十三卷四十二出ツ、
洞口ニ印ノ功能ヲ説テ曰ク「二小二無名ヲ
寶幢形トシ、二風二空ヲ寶珠ト觀ス、此レ幢
ノ上ノ寶珠ナリ」

此尊金界ニ在テハ寶部、胎藏ニテハ蓮花部
ニ攝ス、

○散念誦」寶生及ヒ寶菩薩ハ俱ニ寶部ノ
故ニ之ヲ出ス、言ハ各々羯言ヲ用ユ、

○發願」迦羅陀山七金山ハ釋迦ノ付屬ヲ

受ケ給フ處ナリ、此山ニ於テ法輪ヲ轉シ給
フ時、大地ヨリ無數ノ地藏涌出ス皆同體ナ
リ、各々右ノ手ハ思惟、左ノ手ニハ錫杖ヲ執
ツテ、而シテ片足ヲ踏ミ下シ給ヘリ、洞口取意

○禮佛」悉怛ハ地、訶訶ハ藏ナリ、

○彌勒法」彌勒トハ舊譯ノ梵號ニシテ、此
ニハ慈氏ト翻ス此レ姓ナリ、新譯ニハ梅陀
隸耶ト言フ、但シ新舊ハ具略ノ異ナリ、

○慈氏菩薩略修瑜伽念誦法二卷善無畏譯

○大日經疏

○上生經並下生經

此法ハ前記ノ經軌ヲ所依トシテ、用テ增益滅罪ノ二種ニ修ス、

此尊ニ淺略二種ノ習アリ、淺略ニハ釋迦ノ補處トシ、深祕ニハ大日同一體トス、無畏譯ノ慈氏菩薩念誦法下卷下十八ニ曰ク「慈氏大日同一體」此レ其證ナリ、今ハ此義ニ依ルナリ、

問曰慈氏ノ立稱如何 答薄草決ニ大疏第

一卷下十一ノ文ヲ引テ曰ク「慈氏菩薩者謂佛四無量心今以慈爲稱首此慈從如來種姓中生能令一切世間不斷佛種故曰慈氏」天師ノ釋ニ曰ク「彌勒菩薩三摩地門所謂大慈三昧一切如來大慈無量悉名彌勒」鈔御口ニ曰ク「彌勒ハ因菩薩ニシテ、大金剛輪、小金剛輪、轉法輪ハ此レ一體ナリ、成就院寬助僧正ハ常ニ都率ヲ欣求シテ、而シテ終焉ノ時ニハ金剛輪ノ印言ヲ結誦セリ、之ヲ思フヘシ」
○道場觀 有阿字「無畏ノ軌上卷下十六ニ曰

ク「觀阿字變成法界塔在於圓明中又轉變塔成慈氏本尊身薄草決ニ御口ヲ引テ曰ク「淺略ノ義ハ阿字菩提心ヲ因ノ義トス彌勒ハ釋迦ノ補處トシテ又因ノ義ヲ示ス又西方四菩薩ノ中ノ因菩薩ナルカ故ニ深祕ノ義ハ大日彌勒一體ナルカ故ニ大日ノ種子ヲ用ユ三形ハ塔印ハ無所不至ナリ又之ヲ思フヘシ」私曰三種眞言ノ中ノ第三ノ明ノ初ノ阿字ヲ種子トスルカ大日經疏第十卷ニ彼ノ眞言ヲ釋シテ曰ク「此眞言以阿字爲體

即是本不生義生者生老病死一切流轉之法彼即體常自不生是阿字義也乃至又能知法體不生故達鑿群機一切心性無所不了現覺隨彼所應得者而成就之即是慈中之上遍施衆生無有窮盡也」此釋ニ依テ便チ阿字不生ノ義ヲ知ルカ故ニ衆生ノ心性ニ達ス衆生ノ心性ニ達スルカ故ニ應度ノ者ニ隨テ而シテ之ヲ成就セシム此レ慈ナリ故ニ知ンヌ阿字ハ則チ慈ノ本ナルカ故ニ種子トスルナリ成率都婆五字所成ノ塔ナリ成

彌勒菩薩以下ハ本軌下卷三ノ文ナリ、置
法界塔印、是即チ三形ノ印ナリ、別ニ塔印ノ
アルニハ非ス、深祕ノ傳ニハ彌勒ノ塔ハ即
チ大日ノ塔ニシテ、此レ自性法身ノ三昧耶
形ナリ、右ノ手ハ則チ說法ノ印ナリ、
○本尊加持印言共ニ第二傳ノ密軌、並ニ大
師御請求ノ十六尊ノ儀軌ニ出ツ、此レ師傳
ノ言ナリ、深祕ノ口傳ニ無所不至ヲ用ユル
コトハ、則チ毘盧遮那ト習フ故ナリ、
○又印印言共ニ大疏第十四卷印品八ニ出

ツ、印ノ金合ハ彌勒ノ主トル所ノ輪寶ニシ
テ、即チ法輪ヲ轉スル義ナリ、是レチ左ニ轉
スルハ魔障ヲ避除スル義、右ニ轉スルハ衆
生ヲ攝取スル義ナリ、
○又印本軌上卷左十五下大疏第十三卷二下
ニ出ツ、疏ニ曰ク、此印如率都婆形者、以持一
切如來塔、故猶如觀音持佛身、或師曰ク、此寶
瓶ノ中ニ淨菩提心ノ如意寶珠ヲ入レテ、隨
類ノ衆生ニ施與スルナリ、
○散念誦一四波羅密ハ大日ノ四親近ナリ、

此レ復々慈氏大日同體ノ故ニ之ヲ用ユ、四波ノ言ハ羯磨會ヲ用ユ、二明王ハ本軌畫像品及ヒ曼荼羅品ニ出ス所ナリ、
○召請本軌上卷下ハニ別印言ヲ説クト雖モ、然レ今ハ印言多キカ故ニ、普通ノ大鈞召ヲ用ユルナリ、
○讚別德ハ本軌上卷下左ニ出ス、此レ全然如意輪ノ讚ニ同シ、
○大勢至法此法ハ大疏ニ、此尊ノ印言ヲ明ス所ヲ所依トシテ、用テ息災ニ修ス、

此尊ノ本誓ハ一切衆生ノ本性菩提心ヲ覆護シ增長ナラシムルナリ、又此尊ハ彌陀ノ大定智德ヲ主トリ、觀音ハ大悲ノ德ヲ司トルナリ、此尊ノ名稱ハ薄草決ニ縷説アリ、
○種子娑大疏ノ説ナリ、大疏ニ娑字ハ眞言種子ノ體ナリト説ク、
○三昧耶形未敷蓮花御口ニ曰ク、觀音ノ衆生本有ノ心蓮ヲ表スル如キカ、洞口ニ曰ク「正觀音ト同ナリト雖モ、正觀音ハ衆生ノ心蓮ヲ開發スル意ニシテ、今ノ本尊ハ既ニ果

ヲ満シ了テ、一切衆生ノ機水ニ入ツテ、而シテ未敷蓮花ヲ生スルナリ、大疏五卷取意大疏第十三卷三十一日ク「猶開敷已而却合」
○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、原ト石山ニ依ルナリ、
形像ノコト四部ノ軌祕藏記等ニハ、右ノ手ノ印相ヲ説カス、今ハ七集ニ依ルナリ、
○本尊加持印ハ大疏第十三卷三十一日説ケリ、謂ク「三補吒乃至此未敷蓮即是如來寶篋猶開敷已而却合」言ハ同第十卷二十六日出ツ、

○散念誦薄草決ニ日ク「別次第ニ日ク佛眼大日正觀音本尊白衣馬頭一字御口ニ日ク「正觀音用否意ニ任ス、諸觀音ノ中ニ用并サルコト之アリ、大金ハ必ラス用ユヘシ、
○召請結界撥遣ハ諸觀音ニ準シテ用ユヘシ、
○勸請 本尊聖者大勢至、蓮花部中諸眷屬。
○禮佛 南無勢至菩薩。
問日此尊ハ何部ノ攝屬ナルヤ 答此レニ二説アリ、謂ユル菩薩部ト觀音部トナリ、而

シテ觀音部ニ攝スルハ大疏並ニ無畏譯ノ
尊勝儀軌ノ說菩薩部ニ入ル、ハ寶積經ノ
說ナリト言フ、予未タ之ヲ見ス、
○隨求法此尊梵ニハ摩訶鉢羅地薩羅ト云
フ、

○佛說普遍光明熾盛如意寶印無能勝大明
王大隨求陀衍羅尼經ニ卷不空
譯

○金剛頂瑜伽最勝祕密成佛隨求即得神變
加持成就陀羅尼儀軌一卷不空
譯、此軌ハ
異人論ノ無キ也

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ四種
法ニ通修ス、別シテハ息災產生滅罪蚰毒、又
ハ船中風難等ニ修ス、

問曰隨求ノ立稱如何 答開心祕決ニ曰ク
「此眞言ハ三世諸佛無數萬億劫ヲ經テ、而シ
テ未タ得サルカ故ニ、隨求即得眞言ト名ク、
今此言ノ功德ニ由テ一切衆生ノ願望、求ム
ルニ隨テ得スト云フコトナシ、故ニ爾名ク」
○種子鉢羅梵名ノ中ノ初ノ字ヲ取テ以テ
種子トス、

○三昧耶形梵篋左ノ第二ノ手ノ所持物ナ
○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、但シ形
像ハ祕藏記ニ依ルナリ、
金輪八輻輪ナリ、戟鉞三股杵ニ柄アリ、
鉞斧鈞斧ニ鈞アリ、
○隨求陀羅尼八印八印ハ宗叡ノ傳ナリ、言
ハ不空ノ軌ニ出ツ、薄草決ニ曰ク八印ハ師
傳ニハ振鈴ノ次ニ之ヲ行ス、御口ニ曰ク此
說師傳タリト雖モ、第三ノ本尊加持ニ行ス

ヘキカ

○第一印文ノ如シ、
○第二印臂ヲ合セテ立ツ此レ鉞斧ノ形ナ
リ、
○第三印文ノ如シ此レ龍索ノ形ナリ、
○第四印初心ハ寶瓶已達ハ無所不至、
○第五六七八ハ文ノ如シ、
以上第六結了

○第七結

品不動法

○金剛手光明灌頂經最勝立印聖無動尊大威怒王念誦儀軌法品一卷空不

○底哩三摩耶不動尊威怒王使者念誦法一

卷空不

○不動使者陀羅尼祕密法一卷金剛菩提

此法ハ前記三本ノ中、正クハ立印ノ軌ヲ所依トシ、テ、用テ調伏延壽除病ノ三種ニ修ス、薄草決ニ御口ヲ引テ曰ク「五大尊ニ於テ向上向下ノ二義アリ、向上トハ因位窮滿シテ猶シ未タ佛地ノ一障ヲ斷セサル等覺ノ位

ニシテ、佛地障ノ根本無明ヲ斷セムカ爲ニ、五大尊忿怒形ヲ現スルヲ言フ、向下トハ果位圓極シテ五智ノ如來難調伏ノ衆生ヲ降伏セムカ爲ニ、再度忿怒形ヲ現スルヲ云フ、謂ク大日如來欲界頂ノ魔王ヲ降伏セムカ爲ニ降三世ノ身ヲ現シ、延命儀軌ノ說或ハ復タ色界頂ノ魔王ヲ降伏セムカ爲ニ不動ノ身ヲ現ス、不動儀軌ノ說此等ヲ向下ノ忿怒身ト言フナリ、私曰向上ノ時金剛瑜定ニ入テ五大尊ノ身ヲ現シテ、而シテ佛地ニ到リ五佛ノ果徳

ヲ證ス、此ノ斷惑證理即チ五尊五佛ナリ」
問曰不動ノ名義如何 答大疏第九卷九二丁十
ニ曰ク「不動者即是真淨菩提心爲表此義故」
因事立名、薄草決ニ此文ノ意ヲ解シテ曰ク
「此意ハ眞淨ノ菩提心ノ法然不變ノ義ヲ事
法ノ不傾動ニ擬スル故ニ、因事立名ト云フ
カ、木幡ノ回心上人ノ口傳ニ曰ク「不トハ阿
字本不生ノ義、動トハ訶字風大ノ義ナリ、是
即チ胎藏大日ノ教令輪ノ義ヲ表ス、阿字ハ
胎藏大日ノ種子ナリ、唵ハ不動ノ種子ナリ、

中臺自性ノ大日化他ノ爲ニ下轉スルカ故
ニ不動ト言フ、不之動轉ノ義ナリ」
問曰儀形ノ表相如何 答底哩三昧耶經上
卷ニ曰ク「又明尊儀即是大日世尊差別智身、
以大願故於無相中而現作相、閉一目有深意、
示現極惡醜弊身、唯佛世尊廣大圓滿衆相具
足、我下劣卑弊之身、亦是怖魔之義、頭上七種、
髮表七菩提分、左垂一髮、向下是垂慈悲之義、
悲念下惡極苦惱衆生也、云無動使者、即大日
如來如世間王勅教命、令使一人、火急追役使、

人至已上至王公下及凡庶無問貴賤更不敢拒逆皆隨使往至彼王所無問善惡一依教命無動使義亦復如是能令真言行者親見佛故發廣大心灌頂位中爲佛長子佛使願淨佛國土遊戲神通右手執劔者如世間征戰防禦亦皆執利器然始得勝菩薩亦爾左手執索者是繫縛之義又如世間密捉一人如有違逆難伏者即以繩繫縛捉將諸佛祕索降伏四魔亦復如是坐盤石上亦是不動之義如世山岳亦以石鎮押方始不動又如大海亦以須彌山鎮押

然始得常安湛然圓滿不動亦爾其大石性能出生一切寶物無動坐大盤石者亦能出生佛功德寶亦是降伏四魔義不動亦自身出火焰光即是本尊自住火生三昧又明火有四種二種世間二種出世間世間火者是內火三毒煩惱名之爲火能燒諸衆生諸善功德故二外火能成就衆生長養萬物出世間火者是大智火也如九十五種外道法中火爲最如大火龍變出世火燒損衆生亦能焚燒衆物此無動智火先能降伏火龍制其異道上至等覺下至衆生

皆能燒諸煩惱乃至菩提大智習氣亦燒一切
衆生無明煩惱黑暗障故又本尊真言句自在
火生義即摩訶盧沙句是此智火住阿字一切
智門重重燒諸菩薩廣大習氣煩惱令盡無餘
故名火生三昧又無動義者執持利劍能斷壞
生死業愛煩惱故降伏三世貪瞋癡我慢煩惱
故喫殘食者噉一切衆生惡業煩惱重障令盡
無餘證無生法忍故三降未來世斷無明煩惱
習氣見障故執金剛索引至大菩提路住佛解
脫門紹隆三寶種位不斷故名降三世義也是

故本尊住四密門也所謂阿阿ハ誤カノハ路哈
輪重重是怖魔義亦是種子義如世間良田堪
下善種諸佛智種亦復如是能成就大悲曼荼
羅出生一切陀羅尼門三摩地門

○道場觀 五峯八柱五峯ハ五智ニシテ是
レ不動一門ノ五智ナリ、八柱トハ八大童
子ナリ、有吽字座ノ種子ニ吽字ヲ觀スル
ハ石山道場觀ノ說ナリ、瑟瑟此レニ多義
アリ天台ノ慈覺ハ綠色ノ石トス、仁海ハ五
色ノ石トス、金寶元祖ハ石ヲ削リ此レヲ

疊ミ揚クル所ノ座トス、淨嚴ハ瑠璃ノ如キ
寶玉トス、洞口ニ曰ク「七寶ノ海底ニ沈ミ一
處ニ集リテ凝結スルヲ云フ、是レ淨菩提心
堅固不動ニシテ、傾動スヘカラサル義ヲ表
ス」取有、哈字天疏第十卷ニ種子ノ字ヲ説テ
曰ク「哈、不動王」此字體ハ因業不可得ノ義ニ
シテ即チ風大ノ種子ナリ、此レ衆生ノ息風
ナリ、延壽ノ爲ニ此法ヲ修スルコト良ニ所
以アルカナ、石山口決ニ曰ク「此字ノ黒色ハ
忿怒調伏ノ色ヲ表ス、其形チ半月ニシテ物

ヲ壞スル風ノ如シ、此レ六障ヲ降伏シテ命
ヲ保ツ義ナリ」
利劔石山口決ニ曰ク「智慧ヲ劔トス、此レ愚
癡ヲ害斷スルカ故ニ」成、大聖不動明王、不
動使者陀羅尼祕密法三底哩三昧耶儀軌五十
右ニ尊形ヲ説ク今ニ同シ、謂ク右手持、智慧、
利劔、斷煩惱、左手以、四攝方便、索、引入、一切衆
生、菩提心、入、火、生、三、昧、一切衆生ハ常恒ニ
煩惱ヲ發起スルカ故ニ、此尊モ亦常恒ニ火
生三昧ニ入テ、一切衆生ノ煩惱ヲ燒キ盡ク

シ給フ義ナリ、四大八大四大トハ降三世等、八大トハ惠光、惠喜、阿耨達、多指德、烏俱婆、誡、清淨、金伽羅、制多佉、ノ八童子ナリ、

○花座。元祖曰ク「諸明王ハ皆六葉ノ印ヲ用ユ、其印相ハ常ノ八葉ノ印ノ二風ヲ二火ノ初節ノ側ニ附ク」言ハ歸命阿ナリ、

○讚。別德ハ底哩三昧耶儀軌中卷下右二ニ出ツ、即チ常ニ用ユル所ノ讚ナリ、

○本尊加持根本印。此印ハ金剛手光明立印、聖無動大威怒王念誦儀軌下右三並ニ大日經

等ヲ以テ本説トス、薄草決ニ曰ク「此印明ハ諸儀軌ノ中ニ出ツ、即チ十四根本ノ中ノ第一ナリ、御口ニ曰ク（此印ヲ大獨股ト云フ、二風立合ス是レ獨股形ナリ、二手合シテ杵ヲ成ス大獨股ノ印ト云フナリ、極喜三昧耶ヲ大獨股ト云フ之ニ同シ、唯タ一手金拳ニ作シ風ヲ伸フルハ小獨股ノ印ナリ、三股ノ印ノ大小又之ニ同シ）木幡ノ傳ニ曰ク（八指内ニ縛スルハ四攝ノ索ナリ、二風立合スハ智劔ナリ、故ニ此ヲ劔索ノ印ト云フ）助私ニ曰

ク内縛ハ或ハ月輪又ハ蓮花ナルカ故ニ此
 レ菩提心ノ體ニシテ即チ不動ノ總體ナリ、
 此内縛ノ菩提心ノ中ニ四攝ノ索ヲ以テ衆
 生ヲ鈞召シ入縛シテ、菩提心ノ中ノ二風ノ
 智劔ヲ以テ、衆生業壽ノ種ヲ斷スルナリ、二
 風ハ即チ衆生ノ命ニシテ此レ業壽ノ種ナ
 リ、業種ヲ以テ智劔ト作スハ、所斷ノ業種即
 チ能斷ノ菩提心ノ智劔ニシテ二體無キカ
 故ニ、即事而真ノ印相ナルコト言ヲ待タサ
 ルカ、

○火界眞言句義囊莫薩縛怛佉誑帝毘藥

來一切如薩縛目契毘藥妙一切功薩縛佉佛功德

怛羅吒此呵惱ヲ憐憫ス贊擊步羅明王摩訶

灑擊欠大忿怒ノ義、六足明王此ヲ軍荼利ナリ、

欠佉呬呬呬頭明王薩縛尾義、大輪明王觀

南能勝火ノ義、無咩怖畏ノ義、怛羅吒、堅固ノ義、

憾捨莊嚴ノ不動、定慮

○劔印立印儀軌丁左ノ說言ハ不動使者陀

羅尼祕密法丁右ノ說ナリ、印言ヲ同處ニ說

クコトハ三軌ノ中ニハ見エス、唯リ大日經

第七卷六十二ニ在ルノミ、

此印ノ功能ヲ薄草決ニ説テ曰ク別師ノ口
傳ニ曰ク風火並ビ立ツルハ火ハ是レ菩提
心ノ智火ナリ、而シテ此菩提心ハ堅固不變
ナルカ故ニ、是レテ風ノ堅固ニ寄セテ彼ノ
義ヲ示スナリ、地水並ヘ屈スルハ生死ノ淤
泥ナリ、水土和合シテ泥ヲ成スルカ故ニ、上
ニ空指ヲ置クハ是レ妄體空無ノ義ヲ示ス
ナリ、左ノ手ハ生界ヲ表ス、故ニ掌ヲ仰ケテ
生死ノ泥ヲ面トスルナリ、右ノ手ハ佛界ナ

ルカ故ニ、掌ヲ覆フセテ菩提心ノ智火ヲ面
ト爲スナリ、右ノ刀ヲ以テ左ノ鞘ニ指シテ
二手ノ風火ヲ合スルハ、始覺修顯ノ智火ヲ
以テ、本有ノ菩提心ニ冥會スル義ナリ

○眞言句義曩莫三滿多縛日羅喃諸命普遍

戰拏極惡中ノリ摩訶路灑拏大忿怒

娑發吒耶破壞吽恐怖怛囉吒堅固憾唵種種

義成就ノ編者曰以上二種ノ句義ハ眞言句

義集ニ依テ私ニ之ヲ注ス、

○字輪觀或憾洞口ニ曰ク此一字ノ觀ハ

深祕ナリ、故ニ二重ノ部ニ出ス、初心ハ宜シク五大ヲ觀スヘシ」

○散念誦 胎藏大日ヲ舉クルコトハ不動ハ胎藏大日ノ教令輪ノ故ナリ、諸真言ノ返數ハ洞口ニ出タリ、

○降三世

○金剛頂瑜伽降三世成就極深祕門一卷空不

○降三世忿怒王念誦儀軌空不

此法ハ前掲ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ調伏息災ノ二種ニ修ス、

問曰此尊ノ立名如何 答薄草決ニ大疏十

卷ノ文ヲ引テ曰ク所謂三世者世名貪瞋癡

降此三毒名降三世又由過去貪故今受此貪

報之身復今生貪業受未來報三毒皆爾名爲

降三世也復次三世者名爲三界大天主彼

怖未曾有更有何衆生勝我耶以能降伏三界

主故名降三世明王鈔略不動ハ惚シテ一切ノ

諸魔ヲ降シ此尊ハ天魔自在等ヲ伏シ玉フ又

此尊ハ東方阿闍佛ノ忿怒明王ニシテ第八

識ヲ主トルナリ、

○種子。吽。極深祕門儀軌。一。曰ク。爲降伏。一切現。吽迦羅身。軍荼利儀軌。二。曰ク。東方觀。吽字。是降三世法身種子。此等ヲ以テ本説トス。

○三昧耶形。五股。金剛壽命陀羅尼念誦法。二。曰ク。時世尊入忿怒三摩地。從胸億五峯金剛。菩提心乃至流出。降三世金剛菩薩身。今ハ正シク此文ニ依ルナリ。

○道場觀。野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ。原ト石山ヲ潤色スルナリ。但シ石山ニハ八臂ノ持

物ヲ説カス。

成降三世尊。極深祕門儀軌ニ四面八臂ノ像ヲ説クト雖モ、然モ持物今ニ異ス、今ハ理趣經降三世品曼荼羅、並ニ高雄仁王曼荼羅圖師等ニ依ルナリ、右足踏大自在欲王、等不空ノ軌。一轉法輪ノ軌等ノ説ニ依ルナリ、

因ニ言フ上ノ醍醐五大堂ノ降三世ハ、左ノ足ニ大自在ヲ踏ミ、右ノ足ニ妃ヲ踏ム此レ深祕ノ説ナリ、自在ト妃トテ次テノ如ク煩惱所知ノ二障トス、常ノ習ニハ強

煩惱障ヲ右ノ足ニ、微細所知ヲ左ノ足ニ踏ム、而ルニ五大堂ノ説ハ、假令煩惱障龜強ナリト雖モ此レ斷シ易シ、故ニ左ヲ以テ之ヲ踏ミ、所知障ハ微細ナリト雖モ還テ斷シ難シ、故ニ右ヲ以テ之ヲ踏ム、此レ壽命經法空ノ説ナリ、

○本尊加持印ハ深祕門儀軌四言ハ不空ノ軌一ノ説ナリ、
薄草決ニ印言ノ功能ヲ説テ曰ク「此印ノ祕傳ハ二手掌ヲ伸ヘテ、先ツ各々膝ノ上ニ覆

フヘ、次ニ掌ヲ反シテ之ヲ置ク、然シテ後ニ兩手ヲ舉ケテ大印ニ作クルナリ、私曰掌ヲ覆反スルハ、此レ三毒ノ煩惱ヲ轉シテ、而シテ菩提心ト爲ス義カ、

不空ノ軌ニ眞言ノ功德ヲ説テ曰ク「誦ホム此眞言一返、則、無量無邊、魔界、各苦惱熱病、於、行者、生、障礙、無、便、者、反、成、僕、從、乃、到、防、難、又曰ク「若、欲、濟、助、重、病、人、對、像、前、呪、香、水、一、百、八、返、急、撮、入、病、者、懷、內、則、醒、起、」

○又外五股印」小呪天明金剛佛頂經六ニ

日ク爾時金剛手菩薩乃至擲五股金剛杵說八字真言曰^三〇^四〇^五〇^六〇^七〇^八〇

○散念誦不動ハ五尊ノ主ナル故ニ之ヲ舉ク例セハ諸觀音ノ法ニ正觀音ヲ掲クル如シ

〇軍荼利法

○甘露軍荼利菩薩供養念誦成就儀軌一卷

不空大師請來譯

○金剛阿密里多軍荼利菩薩自在神力呪印

圖多阿地釋

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ用テ身魔

五陰降伏ニ修ス

洞口ニ日ク此尊ハ南方寶部平等性智ノ教

令輪ナリ識ニ約スレハ第七摩那識ニシテ

即チ我癡我見我慢相應差別ノ識ナリ之ヲ

轉スレハ則チ平等性智ト成ル是即チ不二

灌頂智ノ處ナリ

○種子吽妙鈔第九卷ニ依ル本軌ニ日ク寶

樓閣中央觀阿字兩邊觀吽字是甘露軍荼利

法身種子也但シ今ハ三字ノ中ノ吽ノ一字

ヲ出ス、祕鈔ハ本軌ノ如ク三字ヲ用ユ、蓋シ
吽字ニハ怒怖ノ義アルヲ以テ、此レチ明王
部ノ通種子トスルナリ、

○三味耶形三股尊ノ右ノ手ノ所持物ナリ、
此レ石山及ヒ妙鈔第九卷ノ説ナリ、

○道場觀 成甘露軍荼利明王、此レヨリ以
下ノ文ハ本軌丁十九ノ説ナリ、四面四臂四
面ハ則チ四種ノ法ヲ顯ハス、謂ク正面ハ息
災、右ノ第二ノ面ハ降伏、左ノ第三ノ面ハ敬
愛、後口ノ第四ノ面ハ增益ナリ、以毒龍爲

嬰路、此レ第七識ノ我癡我見我慢我愛ノ四
煩惱ニシテ、第七識ノ執著ヲ現ハスナリ、洞
口ニ曰ク、此レチ平等性智ヲ以テ照破スル
片ハ、則チ一切ノ煩惱悉ク以テ莊嚴ト成ル、
是則チ煩惱即菩提ノ深旨ナリ、取 虎皮爲
裙、此レ妄執ヲ表ス、口調

○本尊加持印言並ニ功能本軌丁十九ニ出ツ、

○又印言並ニ功能ハ本軌左右ニ出ツ、

○大威德法

○聖閻萬德迦威怒王立成大神驗念誦法空不

金ノ釋大師請來
剛部ニ入ル

○大。乘。方。廣。萬。殊。室。利。菩。薩。花。嚴。本。教。讚。闍。萬。德。伽。忿。怒。眞。言。大。威。德。儀。軌。品。上同

○大。方。廣。萬。殊。室。利。童。眞。菩。薩。花。嚴。本。教。讚。闍。萬。德。伽。忿。怒。眞。言。阿。毘。遮。嚙。迦。儀。軌。品。上同

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ調伏等ニ修ス、此事薄草決ニ證テ舉ケテ以テ詳解セリ、

此尊法ハ總シテハ人魔ヲ伏シ別シテハ生靈死靈ノ奇病ニ修ス、

此尊或ハ六足尊ノ稱アリ、此レ第六意識妙觀察智ノ用ナリ、

○種。子。紇。哩。當。尊。ハ。西。方。蓮。花。部。ノ。教。令。輪。ナ。ル。故。ニ。之。ヲ。用。ユ、

○三。昧。耶。形。寶。棒。祕。藏。記。ニ。之。ヲ。出。ス、此レ尊ノ所持物ナルカ故ニ之ヲ用ユルカ、元祖賴瑜等モ未タ之ヲ決セサル如シ、洞口ニ曰ク「寶棒トハ獨股ノ頭ニ如意珠アルヲ云フナリ」

○尊。形。軌。ニ。曰。ク。六。足。六。首。六。臂。五。大。尊。義。ニ

日ク「六臂六面六足」薄草口決大妙金剛佛頂經六
ニ日ク「六臂六手六足」此等ヲ本説トス、

○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、今ハ前
記三軌ノ中第一ノ軌ニ據ルナリ、
有。水。牛。當尊ニ權實ノ二智ヲ具ス、故ニ生死
涅槃ニ自在ヲ得ルコト、喩ヘハ水牛ノ水陸
ニ自在ヲ得ルカ如シ、是故ニ之ヲ以テ座ト
ス、薄草決ニ詳解アリ、成。如。意。寶。棒。洞。口ニ
日ク「如意ハ福、棒ハ智ニシテ此レ福智ノ二
德ナリ」滿。六。度。洞。口ニ日ク「此レ十波羅蜜

ナリ」

○根本印印言並ニ功能ハ神驗念誦法右五丁
下ニ明セリ、日ク「總結此印誦眞言其人等同、

大威德忿怒明王身無有異、洞口ニ日ク「二中
指ヲ立合ス此レ本尊所持ノ寶棒ナリ、是故
ニ此レヲ寶棒ノ印ト言ヒ、或ハ錚ノ印ト云
フナリ、

○心印印言共ニ神驗念誦法ニ出ツ、其功能
ニ日ク「結此印誦眞言所作事法皆得成就」

○心中心印印言共ニ神驗念誦法ニ出ツ、其

功能ニ曰ク「結此印誦言能成辨一切事」御口
ニ曰ク「二頭指ヲ直立スルハ怒杵ノ形ナリ」
○正念誦御口ニ曰ク「常ニハ心呪千返、惡夢
ニハ心中心呪千返唱フヘシ」
○布字觀神驗念誦法ニ出ツ、御口ニ曰ク「先
ツ定印ヲ結ヒ此レヲ心中ニ觀スヘシ、惡夢
破滅ニハ寢殿ニ於テ、先ツ定印ヲ結ヒ布字
觀ヲ作シ、次ニ心中心呪ノ印言ヲ結誦スレ
ハ、惡夢頓ニ滅スルナリ」
○金剛藥又

○金剛藥又瞋怒王息災大神驗念誦儀軌一
卷

○瑜祇經金剛焰口品

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ息災
調伏又ハ不食ニ修ス、

問曰藥又ノ稱如何 答極惡ノ相ヲ現スル
ヲ云フ、

此尊ハ北方不空成就ノ教令輪ニシテ、前五
識ヲ主トリ、專ハラ地魔ノ野干ヲ降伏ス、

問曰此尊ト烏瑟沙摩ト同異如何 答異名

同體ト習フ、洞口ニ曰ク「御筆ノ五大尊ニ、金剛藥又テ除テ烏瑟沙摩ヲ加フ、又御修法ノ五段護摩ニモ金剛藥又テ除テ烏瑟沙摩ノ法ヲ行ス」取

○種子吽

○三昧耶形羯磨輪。瑜祇經金剛焰口品ニ曰ク「若作曼荼羅及畫、或以觀、當觀吽、一字成大羯磨輪、放光焰、金色」此文ニ依ルカ、吽ハ恐怖ノ義、輪ハ摧破ノ義ナリ、故ニ吽字變成大羯磨輪ト云フナリ、羯磨ヲ以テ三形トスルコ

トハ此レ事業成辨ノ表示ナリ、羯磨輪ノ先キニ三股形アルヲ云フナリ、

○尊形。瑜祇經下卷四丁ニ曰ク「六臂持衆器、乃至三首馬王警」此レ本説ナリ、

○道場觀。石山ニ依ル、五眼等羯磨ニハ五部ヲ具ス、故ニ隨テ五眼ヲ具ス、五眼ハ五部ヲ表シ、三首ハ胎ノ三部ヲ示ス、此レ兩部不二ノ義ナリ、薄草決ニ曰ク「三面ノ中ノ正面ハ實ニ五目ヲ具ス、左右ノ面ハ各々三目三面ニシテ皆ナロ、テ開ク、上ノ唇ニ牙アリ、六臂ノ右ノ第一ハ五股、第二ハ矢、第三ハ劔、左

ノ第一ハ鈴、第二ハ弓、第三ハ金剛輪ナリ、此
中弓箭ハ敬愛ヲ表シ、劍輪ハ降伏ヲ表シ、鈴
杵ハ本身薩埵ヲ表ス。馬王警馬ノ嘶ク片
ハ必ラス鬪ヲ堅ツ、是レ勇ミ怒ル狀ナリ、本
尊ノ忿怒ノ相ヲ現スルコト彼ニ似タリ、故
ニ之ヲ表示トス、堅固精進以下ハ本誓ヲ
明スナリ、

○本尊加持印言共ニ瑜祇經ノ說ナリ、此印
ヲ根本ノ印、又ハ笑眼ノ印ト云フ、即チ摩羯
魚ヲ形トルナリ、謂ク二小指ハ牙、二無名ハ

齒、二大二頭ノ間ハ兩眼ニシテ日月ノ如シ、
是レ一切衆生ノ一切煩惱ヲ斷噉スル表示
ナリ、

○又印此ハ金界羯磨會牙菩薩ノ印ナリ、
但シ彼ハ外縛此ハ内縛ナリ、言ハ瑜祇經下
卷五ノ說ナリ、

○又印此ハ金界羯磨會牙菩薩ノ印ナリ、本
尊ト牙菩薩トハ同一體ノ故ニ之ヲ用ユ、二
小二頭ヲ四牙ト觀ス、五塵煩惱トハ本尊
ハ前五識ニ相當ス、故ニ前五識所取ノ五塵

ノ境ヲ舉クルナリ、
○愛染王法凡ソ本流ノ次第ニ六本ノ異アリ、其中今ハ普通淺略ノ次第ナリ、故ニ表題ニ通用朱ト云フナリ、
此法ノ行用ニ二種ノ別アリ、御口ニ曰ク或ハ十七尊ニ就テ之ヲ修ス、謂ユル小野僧正ノ大次第ニ依ル、彼次第ハ金剛王儀軌勝佛頂儀軌ニ依テ之ヲ作ス、或ハ三十七尊ニ就テ之ヲ行ス、謂ユル瑜祇經ノ説ニ依ルナリ、
問曰愛染王ニハ本儀軌之レ無キヤ 答薄

草決ニ曰ク或記ニ曰ク小野僧正大次第自ノ奥ノ日記ニ曰ク以金剛王儀軌爲愛染儀軌、是禪念律師所傳、御口ニ曰ク禪念律師ハ宗叡ノ弟子ナリ

○道場觀有惡字之ヲ以テ樓閣ノ種子トスルコトハ前出ノ佛眼法ノ如シ、五峯ハ柱五峯ハ金剛ノ五智ヲ表シ、八柱ハ胎藏ノ八葉ヲ示ス、是即チ兩部不二ノ樓閣ナリ、
有、紇哩之ヲ以テ種子トスルコトハ瑜祇經內護摩品ノ説ナリ、品ニ曰ク清淨自在字徹

照三界冥地獄諸有趣悉淨如蓮花元祖曰ク
「訖哩ハ訶羅伊惡四字合成ノ字ニシテ三毒
チ滅シ涅槃ヲ證スル義ナリ故ニ清淨不染
ノ蓮花ヲ種子トス」賴瑜曰ク「蓮花ハ不染ノ
體ナル故ニ清淨自在ノ字ヲ以テ種子トス
ルカ」有阿字御口ニ曰ク「熾盛ノ日輪ハ或
ハ果地智德ノ勇健ヲ表ス或ハ此法悉地ノ
速疾ナルコトヲ現ハス但シ之ニ付テ所論
アリ薄草決ニ解アリ、有吽字等薄草決ニ
御口ヲ引テ曰ク「本尊ノ種ト三トニ二ノ習

アリ、一ハ種ハ吽或ハ重三ハ五股或ハ五二
ハ種ハ斛三ハ箭ナリ此二種事ニ隨テ用ユ
ヘシ「播鈔ニ曰ク五股ハ金剛薩埵ノ三形ナ
リ今ノ尊ヲ金薩ト同一體ト習フ故ニ五股
ヲ以テ三形トス今ノ明王モ鈴杵ヲ持シ給
フ故ニ瑜祇經ニ儀形如薩埵ト説クナリ」
杵變成金剛愛染明王此義ハ二重ノ次第ニ
至テ辯スヘシ、

○讚此讚ハ即チ愛菩薩ノ讚ナリ而シテ今
之ヲ用ユルハ彼菩薩ト當本尊トハ異名同

體ノ故ナリ、此讚ハ蓮花部心儀軌丁七ノ説ナリ

○本尊加持根本印二手金剛拳ニシテ、十指ヲ内縛シテ忍願ヲ直ク立テ針ノ如クニ作スヘシ、相交即成染トハ右ノ火ヲ以テ左ノ火ノ側ヲ押ス、是レ理智冥合定惠和合ノ義ナリ、是故ニ愛染ノ義專ハラズニ在ルナリ、澤方ニハ弓箭和合ノ義ト習フ、右左○次外五股印印言共ニ愛染王品ニ説ケリ、五處ヲ加持ス、

復説根本印二此義ハ第二重ニ至テ述フヘシ、
瑜祇經上卷丁八ニ印言ノ功能ヲ説テ曰ク若持此真言、及以密印力、印心額喉頂、如金剛頂身、一切諸罪垢、纒結即當滅、若寂災增益、愛敬與調伏、隨其所愛者、纒誦此真言、彼即當獲得、若毒若相憎、纒結誦當息、加持食七返、我當降甘露、
○次内五股印印ハ經ノ中ニハ説カス、此レ相承ノ口傳ナリ、言ハ經ノ成就品ニ説ク、
瑜祇經愛染品ニ印言ノ功德ヲ説テ曰ク若

總結一返、及誦本真言、能滅一切罪、能生無量福、

問曰五股ノ印ノ内外ノ別如何、答外五股ハ外ノ魔障ヲ除ク、大疏ニ曰ク外是煩惱障、内五股ハ内ノ障礙ヲ滅ス、大疏ニ曰ク内知障迷、理曰煩惱迷事、曰所知即法執也、

○正念誦或ハ小呪ヲ用ユ、

○烏菴沙麼法、

○大威怒烏菴沙麼儀軌、不空ノ譯
大師請來

○金剛恐怖集會方廣儀軌

○觀自在菩薩最勝心明王大威力烏菴沙麼

明王經三卷、無能勝
三藏譯

○穢迹金剛說神通大滿陀羅尼法術靈要門

經、同

○穢迹金剛法集百遍法門經、同

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ產生病患、渴水俗ニ言フ所病、枯木毒蛇惡鬼怨家、相愛智惠富貴ノ十種ニ修ス、以上十種ノ中、九種ハ法術靈要門經ノ說、產生ノ一種ハ三卷ノ經ノ中卷、下及ヒ下卷、下右ノ說ナリ、

問曰此尊能變ノ佛身如何 答此レニ異說多シ、烏菴沙麼儀軌ニハ(普賢)瑜祇經金剛焰口品ニハ(金剛藥叉)大疏第九卷ニハ(不(動)集經第十卷)一ニハ(不淨潔金剛)同)四ニハ(火頭金剛)穢迹金剛經)一ニハ(不壞金剛)ノ化身トス、或師ハ此尊ハ北方不空成就佛ノ教令輪ニシテ釋迦ノ化身トス、薄草決ニ具說アリ、

○種子 吽忿怒尊ノ通種子ナリ、

○三昧耶形 獨股 此レニハ摧破ノ功用アリ、

忿怒尊ニハ降伏ノ功用アリ故ニ之ヲ用ユ、
○尊形 畫像法經ノ處々ニ說ケリ、故ニ種種ト云フナリ、

○道場觀 野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、成烏菴沙麼明王)三卷ノ經ノ上卷)五ノ說ニ同シ、打車棒トハ毘沙門所持ノ寶棒ノ如キ物ナリ、三股又)既ニ前述ノ如ク、上ノ方ハ三股形ニシテ下ノ方ニ柄アリ、夜叉及)等三卷ノ經上卷)ニ曰ク、以)夜刃及)阿修羅衆並)訶里帝母及其愛子等爲侍從)此レ本說ナリ、

○本尊加持印相ハ押紙ノ如ク、掌ヲ開ヒテ印ヲ覆フセハ自ラ獨股形ト成ル、二大心ヲ指スナリ、洞口ハ掌ヲ開クヲ不可トス、又曰フ便所ノ作法ニハ此印ヲ用ユヘシ、此印ハ本軌右四丁ニ言ハ同三ニ説ク、功能ニ曰ク「如是三返畢已首同本尊」

○又印言共ニ集經第十卷丁十一ニ説ケリ、但シ三股ノ稱同フシテ、印相ハ今ニ異ス、功能モ同處ニ説ケリ、薄草決ニ之ヲ引ク、○又印印ハ烏菴沙麼儀軌丁十二ニ言ハ同丁四ニ

説ケリ、蓮拳ヲ用ユル理由ハ薄草決ニ解釋アリ、

○結界或口ニ曰ク「本尊ハ金剛部ナル故ニ降三世相當ナリト雖モ、當本尊ハ不動ノ化身且ツ不動ハ諸部通用ノ故ニ之ヲ用ユルナリ」薄草決ニ曰ク「御口ニ曰ク或口ニ金剛部ノ尊ト云フコト不審ナリ、今ハ北方ノ教令輪ナルカ故ニ」

○散念誦 不動ハ能變化ノ佛身ト言フ説ニ由テ之ヲ加フ、降三世モ亦此意ナリ、

○伴僧御加持此事薄草決ニ見エタリ、
○金剛童子法

○聖迦提忿怒金剛童子菩薩成就儀軌三卷
不空ノ譯大師請來、三
學錄ニハ雜部ニ入ル

○佛說無量壽佛化身大忿怒俱摩羅金剛念
誦瑜伽儀軌金

○金剛童子念誦儀軌經

○金剛童子出生摩尼如意供養儀軌不空
此法ハ前軌四軌ノ中、三卷ノ軌ヲ主トシ、諸
餘ヲ補トシテ、用テ所望產生息災調伏ニ通

修ス、

問曰若シ本尊無キハ如何 答當寺本尊
ノ心上ニ、彼ノ祕尊ヲ觀スヘシ、

○種子吽金智ノ儀軌五ノ說ナリ、軌ニ曰ク
「觀自心花內、威光盛日輪、吽字成獨股、

變成忿怒尊」此レ本說ナリ、又吽ハ忿怒ノ通
種子ノ故ニ之ヲ用ユ、

○三昧耶形三股三卷ノ軌丁右三ニ曰ク右第
一手持底里賞俱金剛杵、是則チ三股ノ梵名

ナリ、三股ハ即チ本尊ノ所持物ナルカ故ニ

之ヲ以テ三形トス、

○尊形青童子黃童子ハ金智ノ軌ノ説ニシテ、青童子ハ不空所譯ノ三卷ノ軌上卷丁十三ノ説ナリ、而シテ黃童子ハ彌陀ノ化身、青童子ハ金薩ノ化身ナリ、金智ノ軌ハ慈覺ノ請來ニシテ、不空ノ軌ハ大師及ヒ慈覺智證等ノ請來ナリ、之ニ因テ東寺一家ハ青童子ヲ用井來レリ、此法東寺家ニ於テハ御修法ノ先例之レナシ、天台ニハ之レアルナリ、

○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、原ト三

卷ノ軌丁十三ノ説ナリ、但シ全文ニハ非ス、

寶山須彌山ナリ、底里賞俱底里ハ三賞俱ハ股ノ梵名ナリ、口彌母沙羅棒此レハ獨股形ノ如キ者ナリト言ヒ、或ハ寶棒ノ寶珠形ノ無キ者ナリト云フ、

○本尊加持根本印印言共ニ三卷ノ軌以下ニ出ツ、印相ハ押紙ノ如シ、

○又印印言共ニ同軌丁十一ニ出ツ、

○又印洞ロニ日ク兩手外ニ向ヒ半ハ覆フセテ胸ノ程ニ並ヘ持ス、兩手ノ指ノ間タ一

寸程之ヲ開ケ、即チ十指ノ先キテ師子爪ト
ス取

○又小呪同軌丁十一左ニ出ツ、印ハ前印或ハ金剛合掌ヲ用ユヘシ、

○結界不動ヲ用ユ、賴瑜曰ク「今ノ尊ハ金薩ノ變身ナリ、金薩ト不動ト慈悲忿怒異ナリト雖モ、同シク是レ菩提心ノ體同一ナルカ故ニ、不動ヲ用ユルカ」

○禮佛一南無金剛童子漢音ヲ用ユ

○正念誦第三ノ呪ヲ用ユヘシ、

○散念誦本尊ノ呪ハ四種共ニ用ユ、若シ一種ヲ略スルトキハ第四ノ呪ヲ除クナリ、

以上第七結了

○第八結

品北斗供

○北斗七星念誦儀軌金智ノ譯金剛頂經

○北斗七星護摩祕要儀軌大興善寺翻經院灌頂阿遮梨ノ撰

○北斗七星護摩法行一

○宿曜護摩儀軌行一

○北斗指尾法佛說北斗七星延命經

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ天變
除災延命ノ三種ニ修ス、若シ延命ニ修スル
トキハ誕生日ニ供スルナリ、
薄草決ニ曰ク「御口ニ曰ク本命ハ七星ニ約
シテ之ヲ論シ、當年星ハ九曜ニ依テ之ヲ言
フ、此法ハ俱ニ毎日一時ノ行法ニシテ、諸星
出現ノ時之ヲ修ス、謂ク戌ノ時歟、編者曰英
刻トハ亥ノ但シ御修法ニハ三時ナリ、別次第
ノ如シ、日曜ハ晝間ニ修スルナリ、北斗供並
ニ屬星供ニ本流ノ習アリ、曰ク三時或ハ一

時意ニ任ス、但シ多クハ一時ナリ、然レ護摩
ノ修法ハ必ス三時ナリ、問北斗七星ハ何
レノ星ナルヤ、答北斗護摩儀軌行一ニ曰ク
「謂、北斗七星者、日月五星之精也、囊括七曜、照
臨八方、曜於天神、下直于人間、以司善惡、而分
禍福、群星所朝、宗萬靈所俯仰、若有人能禮拜
供養、長壽福貴、不信敬者、運命不久、私曰此軌
ニ依テハ、則チ今ノ七星ハ、是レ諸曜ノ精衆
星ノ主ナリ、依テ信毀是レ特ニシテ、罪福即
チ新ナル者カ、尋テ曰ク、北極北辰ハ是レ

北斗ナルカ、答私曰北極ハ此レ北斗ニシ
テ、北辰ハ北斗ニハ非サルカ、故ニ北斗儀軌
ニ曰ク（我爲末世衆生說、是北極七星、儀則）略
是即チ北斗七星ヲ北極七星ト云フナリ、又
七佛所說神呪經ニ曰ク（我北辰菩薩名曰妙
見、今欲說神呪、擁護諸國土、所作甚奇特、故名
曰妙見）既ニ妙見ヲ北辰ト云フ、尊星王ハ北
斗ニ非サルカ故ニ、或曰（北極トハ紫微宮五
星ノ隨一ナリ）此說亦北斗ニハ非サルカ、大
師ノ寶鑰ニ曰ク（南斗隨運、北極不移、私曰此

文ハ北斗ニ名クルカ、南斗北斗相對ノ故ニ、
又最勝王經開題ニ曰ク（如七曜旋北辰、或曰
此文ハ七曜北斗ヲ回クル義カ）私曰七曜妙
見ヲ回クル何ノ失ソヤ、論語卷ノ一ニ曰ク
爲政以德、譬如北辰、居其所而衆星共之、妙見
尊星王北斗北辰北極ノ同異、本流他流說說
同シカラス、以上諸傳ノ意ヲ以テ之ヲ案ス
ルニ、妙見ト尊星王ハ一體異名カ、
○先辨備供具、終ニ至テ圖ヲ出ス、但シ中品
ノ圖ナリ、此圖ノ左右花鬘器ノ次ニアル

所ノ飯汁菓六杯ハ、中尊ノ金輪ニ供スル料ニシテ、餘ノ十二杯ハ圖ニ記スル如シ、

問曰供具ノ本説如何 答錢及ヒ紙錢銀錢ノ名稱ハ、七曜星辰別行法ニ出ツ、

問曰紙錢等ノ數量如何 答行者或ハ施主ノ年齢ニ隨テ増減アルナリ、梵天炎羅九曜丁九ニ曰ク(用好紙剪隨年錢)此レ本説ナリ、但シ今ハ施主ノ年數ニ一枚ヲ増加ス、此レ年數ハ過去ノ恩ニ答ヘ、一枚ハ當來ノ壽ヲ祝スル意ナリ、

茶ヲ供スルコトハ七曜星辰別行法ニ出ツ、
漿ヲ供スルコトハ梵天炎羅九曜ニ出ツ、
幡ノ本説未タ得ス、

問曰佛具調進ノ方法如何 答薄草決ニ御

口ヲ引テ曰ク金輪ニハ白飯、諸星ニハ交飯

ナリ、本式ニハ五穀和合ノ飯ナリ、五穀ヲ和合シテ堅

ク煮タル飯ヲ用ユ、中品ノ儀ハ小豆飯、略式

ニハ白飯ニ小豆ヲ指ス、最略ニハ金輪及ヒ

諸星悉ク洗米ヲ用ユ、

○壇前普禮此時觀念スラク(我レ親タリ金

輪佛頂七星九曜十二宮二十八宿等ノ衆星ニ對シ禮拜シ奉ツル之ニ就テ薄草決ニ問答アリ、凡ソ天部ノ行法ニハ著座ノ首メ、五股杵ヲ三度抽擲シテ、自心薩埵ノ觀ヲ爲スヘシ、此觀ハ眞言行者ノ常觀ナリト雖モ、總ヘテ天部ハ自他隔歷ノ意ヲ對帶スル故ニ、特ニ此法ヲ作スナリ、但シ此義ハ實類ノ天部ニ付テ云フナリ、

○勸請用否ノコト薄草決ニ解アリ、謂ク御修法ニハ之ヲ用井、常ニハ行セサルナリ、

○道場觀 成金輪佛頂ニ金輪ヲ觀スルコトハ、一切ノ諸星ハ皆悉ク金輪ノ毛孔ヨリ出生ス、故ニ能生ノ金輪ヲ以テ上首トス、此レ金輪儀軌ノ說ナリ、而シテ此金輪ハ釋迦金輪ナリ、故ニ前出ノ金輪トハ三形等同シカラス、彼ハ大日金輪ナルカ故ニ、智拳印ニ住シテ法身ノ莊嚴ヲ爲ス、此ハ法界定印ニ住シテ三十二相八十種好ヲ具ス、此レ彼此ノ異ナリ、

問曰金輪ニ二種アル中ニ特ニ釋迦金輪ヲ

舉クルコト如何 答釋迦ハ人天ノ能化ナ
ル故ニ之ヲ用ユ、
各有盧字「北斗七星護摩法」四ニ曰ク「爐中有
七盧字變成北斗七星」此レ本説ナリ、
○花座此レ金輪ノ座ニシテ、荷葉ハ諸星ノ
座ナリ、

問曰總ヘテ天部ノ修法ニハ、振鈴及ヒ入我
我入正念誦字輪ノ三觀之レ無キコト如何
答諸天部ニ鈴ヲ用井サルニ二説アリ、謂
ク一ハ諸佛ハ常ニ定ニ住スルカ故ニ、驚覺

ノ爲ニ之ヲ用ユ、二ハ鈴ハ是レ説法ノ義ヲ
表ス、其レ諸佛ニハ説法ノ義アリト雖モ、諸
天ニハ關ケテ此義ナシ、故ニ之ヲ用井サル
ナリ、

凡ソ諸天ノ法ハ大旨外法ニ準ス、何トナ
レハ諸天ハ理觀ニ疎シ、此レ等流身實類ノ
故ナリ、之ニ由テ高尙絶無ノ三觀ハ用井サ
ルナリ、

○次蠟燭付火此コト十二天儀軌一ニ出ツ、
是レヲ本説トス、自行ニハ行人自ラ火ヲ點

シ、外儀ニハ承仕之ヲ行フ、天部ハ特ニ光明
ヲ愛ス、故ニ此儀式ヲ作スナリ、蠟燭ノ製法
ハ洞口ニ見エタリ、

○現供。先ツ花香、次ニ前供ノ飯汁菓ヲ一度
ニ供シ、次ニ妙見ノ飯、次ニ七星ノ錢茶飯ヲ
各別ニ、次ニ燈明ヲ供ス、若シ略儀ニ就ク片
ハ燈明ヲ壇上ニ置キ、而シテ是レヲ菓ノ次
ニ供ス、此ノ如ク諸星ノ供物ヲ悉ク前供ノ
時供シ了ルナリ、洞口ニ曰ク「壇上ノ蠟燭飯
ヲ供養シ、錢ヲ燒イテ之ヲ攘ヘヨ、便チ災害

生セサルナリ、若クハ此等ノ意ニ依ル者カ、
問曰供物ハ何處ニ於テ之ヲ燒クカ、答成
賢僧正曰ク「堂外ノ大床ニ於テ之ヲ燒カシ
ム」如法ニハ座毎トニ之ヲ燒ク、若シ略式ニ
就ク片ハ結願ノ座ニ於テ、一度ニ燒キ攘フ
ナリ、

○頂輪王印言「印ハ金輪要略念誦法、三言ハ
北斗七星護摩祕要儀軌丁ノ説ナリ、洞口ニ
曰ク「此印ハ八輻輪ノ形ナリ、二頭ヲ指ス大
釋二金輪ニ通シテ之ヲ用ユルナリ」

○妙見印言印言各々玄祕鈔第四卷ノ説ニ依ル、彼ニ施無畏ハ師説ナリト云ヘリ、

○召北斗印言北斗七星護摩法丁四ノ説ニ同シ、

○北斗惣印言印ハ十二天儀軌丁四所明ノ七曜ノ印ニシテ言ハ北斗護摩法丁一所説ノ七星ノ言ナリ、

有口傳兩手ノ地水火ノ六指ヲ合セシマ、各々少シ開キ、右ノ大指ニ食左ノ大指ニ巨右ノ風指ニ録左ノ風指ニ文二中ニ廉二水

ニ武二小ニ破此ノ如ク七星ニ配スルナリ、

○七曜九執十二宮惣印言印言各々北斗護摩法丁二ニ明セリ、但シ印ニ少異スル所アリ、定惠團トハ虚心合掌ナリ、

○二十八宿惣印言印言共ニ十二天儀軌丁四ニ出ツ、

○本命星印言以下五種ノ印言ハ人ニ依テ一準ナラス、故ニ今ハ只題號ヲ舉クルノミ、後ニ至テ各別ノ印言ヲ出ス、

○金剛吉祥成就一切明以下ノ三印言ハ瑜

祇經下卷以下右 金剛吉祥大成就品ニ出ツ、
此三印言ノ列次ニ深旨アリ、謂ク初ニ金剛
吉祥ヲ擧ケ、後ニ佛眼、中間ニ七曜ヲ出ヌコ
トハ、佛眼ノ威力ニ依テ七曜ノ不祥ヲ除ク
義ナリ、

○妙吉祥破諸宿曜印明此レテ師子口ノ印
ト云フ、曰ク一切ノ不祥ヲ噉食スル義ナリ、
妙吉祥ハ即チ文殊ナリ、而シテ此尊モ亦衆
星ヲ司トル故ニ之ヲ擧ク、

○散念誦 文殊ハ天變恠異所祈ノ尊ニシ

チ、復タ衆星ノ主ナル故ニ、炎魔天ハ延命ノ
尊ナル故ニ此等ヲ掲クルナリ、

○當年星供或ハ屬星供ト稱ス、薄草決ニ曰
ク、御口ニ曰ク行者或ハ施主等ノ當年ニ屬
スル星ニ望メテ、之ヲ供スル故ニ爾云フ、此
レ九曜ノ中ノ一星ナリ、前ノ本命ハ一生ノ
中ノ星ニシテ、更ニ改ムルコトナシ、當年星
ハ毎年之ヲ改ム、故ニ隨テ何人ニ在リト雖
モ、九曜日月火水木ノ中ノ其一ニ當ルナリ

取

○道場觀此文ハ通用ナリ、九曜ヲ各別ニ觀スルコト押紙ノ如シ、又朱書ノ如ク通種子ヲ觀スルモ敢テ失ナシ、

○入佛三昧耶此印言用否不定ナリ、然ルニ用ユルヲ可トス、所以何トナレハ天等ハ其位下劣ニシテ、自ラ三平等ノ理觀ニ住スルコト能ハス、而ルニ此印言ノ功力ニ依テ、召請スル所ノ尊ト、壇上ノ本尊ト行者本具ノ尊ト、一體無二ナルコトヲ得、是故ニ此印言ヲ用ユルナリ、

○結界馬頭仁海ノ略頌文ニ曰ク「最勝金輪馬頭尊」此頌ノ意ニ依レハ、金輪ト馬頭トハ相應ナリ、故ニ今馬頭ヲ舉クルカ、不動ハ通結界、無能勝ハ釋迦ノ化身ナリ、今ノ本尊金輪モ亦釋迦金輪ナリ、是故ニ之ヲ用ユルナリ、

○頂輪王印言此ヨリ以下ノ諸印ハ前ノ本命供所出ニ同シ、

○炎魔天供炎魔此ニハ靜息ト翻ス、

○陀羅尼集經第十二卷

○胎藏四部儀軌

○大疏第五卷

○炎羅王供行法次第空不

○冥道供次第空不

此法ハ前掲ノ經軌等ヲ所依トシテ、用テ除
災延壽ノ二種ニ修ス、

此尊ハ大日又ハ地藏ノ化身ト云フ、

此尊ト死王ト同異ノコト一箇ノ所論ナリ
ト雖モ、刻實スル片ハ異名同體ナリ、但タ法
門ノ施設ニ就テ暫ク同異ヲ論スルノミ、今

其明證ヲ掲レハ、炎羅供行法次第丁ニ曰ク

「先應知是王五變身、乃至一炎羅法王是即本

號、二死王等炎王ハ衆生ヲ勸諭シテ惡ヲ斷

セシメ、死王ハ衆生ノ惡ヲ作スヲ見レハ、怒

ニ之ヲ殺伐ス、是レ二王ノ以テ分カル、所

以ナリ、又俗説ニ言フ所ノ三途河ノ祖母ト

ハ即チ炎王ノ妹君ナリ、而シテ是レハ女人

ノ罪惡ヲ正タシ、炎王ハ男子ノ罪過ヲ糺ス、

此レチ六波羅蜜經ニハ雙王ト云フ、此ニハ

一身男女ノ形ヲ現ス、既ニ前ニ述フル如ク、

男子ノ罪ヲ正タス片ハ男身ヲ現シ、女人ノ過ヲ糺ス片ハ女身ヲ現スルナリ、此天ノ喜曠ニ隨テ禍福アルコト、十二天儀軌ニ説クカ如シ、近クハ薄草決ニ見ユタリ、師説云、以亥刻可供之、此天ノ屬攝ニ二説アリ、曰ク一ハ天衆、一ハ鬼類ナリ、而シテ天衆ニ攝スル片ハ其形相柔和ヲ示ス、則チ十二天隨一ノ炎魔天是レナリ、鬼類ニ屬スル片ハ其狀チ忿怒ヲ表ス、即チ今ノ尊是レナリ、而シテ今ハ二類ノ中、暫ク鬼類ニ攝ス、鬼ハ

能ク深夜ニ威力ヲ得是故ニ亥ノ刻ヲ以テ之ヲ供スルナリ、

○金剛眼。此法ニ之レヲ用ユルコト此レ口傳ナリ、今ハ避除ノ義ニハ非ス、深旨更ニ問へ、夫レ本尊並ニ諸眷屬ハ皆鬼類ナリ、而ルニ此印言ヲ以テ自身ヲ加持スル片ハ、則チ生身ノ眼變シテ忽チニ金剛眼ト成ルコトヲ得、此眼ヲ以テ見ル片ハ諸ノ鬼類モ佛性ト平等ニシテ周遍法界ノ身ナリ、是故ニ今本尊ノ身ト成ルコトヲ得之ニ由テ此印言

ヲ結誦スルナリ、

○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、
有炎字此レハ眞言並ニ梵名ノ首メノ字ナ
ルカ故ニ之ヲ種子トス、

問曰眞言及ヒ梵號ノ首尾ノ字ヲ以テ種子
トスル本說アリヤ 答大疏第十卷ニ曰ク
「凡諸眞言中隨取初中後字用爲種子皆得此
レ其本說ナリ、

成檀茶印此レ本尊所持ノ人頭幢ナリ、
肉色此レニ異說アリ、大疏第五卷六丁ニハ

（黑玄色）ト云フ、今ハ祕藏記卷下ノ說ニ依ルナ

リ、今ノ形相ハ十二天儀軌丁二ノ說ニ同シ、

○獻座御口ニ曰ク水牛座トハ此尊ノ乘ル

所ノ牛ナリ、荷葉ノ印ヲ水牛座ト觀スルナ

リ、牛ノ中ニ於テ水牛ハ特ニ水陸ニ自在ヲ

得、是即チ此尊ノ生死海ノ有情ヲ利益スル

ニ自在ナル義ヲ表ス取意

○禮佛提婆羅惹ハ本尊ノ梵號ナリ、

○檀茶幢印印ハ青龍儀軌下卷丁七言ハ同丁八

ノ說ナリ、眞言ノ吠無背反種子字ノ體ハ縛不

可得ノ字ナリ、當尊ハ無縛三昧ヲ以テ、一切衆生ノ煩惱所知ノ二障ヲ縛シテ、而シテ解脱セシムルナリ、此レ吠字ヲ以テ種子トスル所以ナリ、薄草決ニ具説アリ、
○又眞言十二天儀軌ノ説ナリ、
○次后印言ハ青軌下卷_{丁九}ノ説ナリ、
○次妃印_印ハ青軌下卷_{丁八}言ハ同_{丁二}右ノ説ナリ、
○次太山府君胎藏次第ニ出ツ、洞口ニ曰ク「毘沙門ノ化身ナリ」

○次五道大神洞口ニ曰ク「太元儀軌下卷_{丁六}ニ眞言ヲ説ク、是即チ常ノ炎魔ナリ」
○次拏吉尼_印言共ニ青軌下卷_{九丁七}ニ出ツ、
○次遮文茶_印舊譯ニハ嫉妬女、又ハ怒神ト云フ、此レ役使鬼ナリ、_印ハ攝軌第二卷_{三丁十}言ハ青軌下卷_{丁十}左ニ出ツ、
○次諸神_印明言ハ梵天炎羅九曜ノ終ニ出ツ、
○散念誦「不動ハ天部ノ主ナル故ニ之ヲ舉ク、

○石山炎魔王供次第云「洞口ニ曰ク今ハ之ヲ用井ス、

品十二天供」

○供養十二天威德天報恩品一卷空不

○十二天勸請天供法一卷空不

○護摩儀軌一卷

此法ハ前記ノ儀軌ヲ所依トシテ、用テ國土豐饒百穀成就ノ二種ニ修ス、

薄草決ニ曰ク「問此法ノ生起如何、答十二天儀軌ニ曰ク、爾時普賢菩薩觀察人天哀愍一

切無問自說曰、一切衆生四大違變有種種病、或鬼魔來作種種病、迷倒世間、減損壽命云何對治、如是內外種種損害、謂諸衆生不知恩、故有如是違以何爲恩、謂地水火風日月諸天皆有內外養育之恩云何得酬、如是諸恩、謂四大種有其精、地天及日月天等也、供養此天有種種利器界、生界皆悉增力也、謂彼天有十二也、地天水天火天風天伊舍那天帝釋天焰魔天梵天毘沙門天羅刹天日天月天也、私曰十二天各々益損アリ、天喜フ片ハ益アリ、天瞋カ

ル片ハ損アリ、益損ノ如ハ故ニ此供ヲ用ユ
ルナリ、又四種ノ精既ニ以テ法界曼荼羅ノ
聖衆群生引入ノ知識ナリ、若シ然ラハ此宗
ニ草木成佛ニ發心修行ノ義ヲ許ルス誰カ
之ヲ疑ハンヤ、故ニ大師ノ即身義ニ曰ク諸
顯教中以四大等爲非情密教即說此爲如來、
三摩耶身、此釋ハ三摩耶身ニ屬シ、今軌ハ羯
磨身トスルナリ、問天神是レ多シ何ソ十二
天ニ就テ供ヲ展フルヤ、答軌ニ曰ク謂十二
天惣攝一切、天龍鬼神星宿冥宦、是故供養了

知十二天得一切天龍等護也、問諸天ヲ供養
スル時ノ觀心如何、答軌ニ曰ク是十二天乃
是往古諸佛爲度衆生而來現也、是故行者不
可依形執天唯觀彼天法身莊嚴、

○道場觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、原ト石
山ヲ略出ス、成四臂不動尊等十二天儀軌
丁ノ說ナリ、謂ク第一ノ二臂ハ常ノ如シ、
第二ノ二臂ハ牙ノ印ニシテ口ノ兩邊ニ在
リ、

○荷葉座 注此時指蠟燭、此コト十二天報

恩品丁六ニ説ケリ、

○撥遣 不動ニハ花鬘ノ花ヲ用井天等ニ

ハ彈指ヲ作ス、

○聖天頸次第

○大聖歡喜雙身毘那耶迦法一卷不空ノ譯

雜部ニ入ル

○大聖歡喜雙身大自在天毘那耶迦歸依念

誦供養善無畏譯

○佛現金色迦那鉢底陀羅尼經金剛智譯

○九目提婆羅惹愛敬法同上

○毘那耶迦誡那鉢底瑜伽悉地品祕要舍光軌

○權現金色迦那婆底九目天法菩提留支

○使呪法施留支此レニ廣中略ノ三本ヲ

○聖歡喜天式法一卷般若羅譯

○大聖歡喜天雙身毘那耶迦天形像品儀軌

一卷懷瑟譯

○大師御作次第一卷並般若寺火布惹記定

賢法務肝心鈔

此法ハ前掲ノ經軌等ヲ所依トシテ用テ四

種法ニ通修ス、

無畏ノ念誦法丁六ニ曰ク是爲要道乃至慎勿
妄傳之又金智ノ九目ノ軌ニハ非器ノ者ニ
ハ授與セザル旨見エタリ之ニ由テ未灌頂
ノ者ニハ授ケサルナリ、

問曰此天ノ得名如何 答薄草決ニ憬瑟ノ
軌ヲ引テ曰ク祕法曰六通自在故名聖天智
惠自在故名大自在成就敬愛故名雙身毘那
耶迦王成熟五穀故名六臂天御口ニ曰ク雙
身ハ是レ權實二天交抱ノ形ナリ所以ニ權
身ニ約シテ聖天ト云フ本身ハ即チ大聖觀

音ナル故ニ實身ニ依テ歡喜天ト云フ乃チ
觀音女人ノ形ヲ現シテ彼ヲシテ歡喜ヲ生
セシムル故ニ之ニ由テ含光ノ軌ニ曰ク以
慈善根力令諸毘那耶迦生歡喜心然後呵責
令不作障不空ノ軌ノ中ニハ權實ヲ並舉シ
テ大聖歡喜雙身ト云フナリ御自筆ニ曰ク
聖天ハ一切毘那耶迦ノ上首ナリ集經所說
ノ一切毘那耶迦ノ印ニハ普通聖天召請ノ
印ヲ用ユ之ヲ思フヘシ以上師傳私曰此天ニ
多ノ稱アリ二名ハ先ノ如シ或ハ毘那夜迦

天ト云フ、此ニハ象鼻ト翻ス、故ニ含光ノ軌
ニ曰ク毘那夜迦又名毘那陀迦、此云象鼻也
其形如人、但鼻極長、即愛香塵故也、唯今大聖
天、其頭眼耳鼻舌諸相皆似象、能隨行者故也
或約所住歟、住毘那荼迦山故、或云譏那鉢底
王、此歡喜梵語也、故金智經曰、金色迦那鉢底
或云九目天、約眼目故、菩提留支法曰、其金色
身正立、有三頭、各面上三目、合成九目、或云雙
身、二天交抱故、以上蓋シ、今本尊トスル所ノ
像ハ權實合像ナリ、男天ハ毘那夜迦ニシテ

寶類女天ハ十一面ノ化身ニシテ權類ナリ

無畏軌

此法ハ後夜日中二時修之此レハ無畏ノ軌
ノ説ナリ、
丁四

○次壇前普禮含光ノ軌丁五ニ先ツ大日次ニ
觀世音次ニ軍荼利ノ三尊ヲ拜スルコトヲ

出ス、此三尊ハ即チ三部ナリ、此三部ノ法ハ
三業ノ懈怠ヲ制ス、故ニ之ヲ行ス、隆源元祖

八代ノ私次第ニハ南無大聖歡喜雙身毘

那夜迦決定等ノ禮文ヲ出ス、

○著座先ツ金薩ノ觀ニ住ス、外、歸命、畔ノ印、誦ニ
ナスル此レ實運ノ口決ナリ、

○塗香洞ロニ曰ク「此事次第ニハ見エスト
雖モ之ヲ用ユヘシ」

○浴湯加持「以小印大呪印ハ文ノ如シ、呪
ノ大小ハ意樂タルヘシ、

○道揚觀野鈔野月祕鈔皆今ニ同シ、觀五
輪世界「胎藏界ノ如ク觀スルナリ、成毘那

耶迦山「元祖御自筆ニ曰ク「毘那耶迦山トハ
彼ノ天ノ本居ノ處ナリ、此山ニ油池アリ常

ニ之ニ浴シテ遊戯ス、又蘿蔔根アリテ恒ニ
之ヲ食フ、又自然所得ノ酒アリ、此等ヲ吞ミ
食フテ歡喜遊戯ス、今ノ供ハ則チ其作法ナ
リ取有取虐取虐取字取御口ニ曰ク「此二字ハ男女
二天ノ種子ナリ、虐ハ行不可得ノ字ナリ、此
天障難ヲ作ス故ニ惡行ヲ主トル、不可得ノ
字ニ歸スルハ惡行消滅スル義ナリ、今聖天
ト云フハ、第七識煩惱ノ體ノ現スル所ノ姿
ナリ、仍テ行不可得ノ字ヲ用ユ此レ祕事ナ
リ」取變成取箕取箕取御口ニ曰ク「三形ニ異説ア

リ、或ハ蘿蔔ヲ三形トシ、或ハ歡喜團ヲ用ユ、
而シテ今箕ヲ用ユルハ祕說ナリ、謂ク二相
向フ形ハ此レ二尊交抱ノ義ヲ表スルカ、此
箕ニハ虛ノ槽粕ヲ除キ眞實也米ヲ止ムルノ
功アリ、是即チ惡ヲ遮シ善ヲ持シ、災害ヲ攘
ヒ福德ヲ招ク標幟ナリ、共象頭人身ナリ金智
ノ軌ノ說ナリ、但シ形像ニ異說アリ、薄草決
ニ見エタリ、

○次身印印相文ノ如シ此レ師傳ノ印ナリ、
故ニ軌ノ印文トハ相違セリ、言ハ含光ノ軌

ノ説ナリ、洞口ニ曰ク「扇底迦羅耶ノ時三度
鍔ル勢ヲ作スヘシ、是レ災難ヲ攘ヒ吉祥ヲ
止ムル義ナリ」取箕ハ糟皮ヲ拂ヒ寶ヲ得、惡
ヲ除イテ善ヲ得此レ息災相應ナリ、
○第三印「印ハ檜尾ノ所傳言ハ含光ノ軌ノ
説ナリ、印説ハ朱書ノ方解シ易シ、洞口ニ曰
ク「此レヲ二寶ノ眞言ト云フ、又此印ヲ舌打
チノ印ト云フ、廣澤ノ成典此印言ヲ結誦ス
ル片、本尊歡喜ノ餘リ甘露ヲ食スル如ク、舌
ヲ打チ給フト云フ、之ニ因テ爾名ク」取

○悅與印印ハ師說ニシテ言ハ金智ノ軌ノ
說ナリ、

○次調和印印言凡ニ不空ノ軌ニ出ツ、御口
ニ曰ク「聖天曠恚ヲ發スル片ニ、此印言ヲ以
テ調和セシムルナリ、故ニ不空ノ軌ニハ此
レヲ調和毘那耶迦ノ法ト名ク」

○次佛慈護印印言凡ニ藥師消災儀軌五ニ
出ツ、言ハ四返ナリ、此印言ノ功力ニ依テ諸
天威光ヲ増シ、行者ヲ守護シ一切ノ災難ヲ
除クナリ、凡ソ一切ノ災難ハ水火風ヨリ起

ル、故ニ今ニ水火風ヲ縛スルハ則チ三災ヲ
空スル義ナリ、

○供蘿蔔等先ツ牙ノ印ヲ以テ磨磨ノ言中心
呪ヲ誦シ三返加持シ了テ、次ニ鉢ノ印ヲ作
シ唵字ヲ誦シテ之ヲ供ス、

○灌油杓ノ柄ヲ風空ノ間ニ出シテ之ヲ持
ス、而シテ二尊ノ間ニ灌ク、若シ誤テ尊ノ御
頭ニ觸ル、コトアル片ハ、虐又ハ娑字又ハ
大金剛輪ヲ誦スヘシ、但シ本流ニハ阿字ヲ
誦スルヲ以テ祕說トス、洞口ニ曰ク「若シ杓

ノ天像ニ觸ル、コトアラハ、杓ヲ置テ金剛
合掌ヲ作シ、首ヲ低レテ懺悔セヨ、若シ二度
ニ及ハハ其百返ヲ捨テ、更ニ新ニ百返誦
スヘシ取

○散念誦「敬愛增益ニハ心呪千返、調伏ニハ
心中心呪千返ヲ誦ス、胎大ヲ擧クルコト
ハ胎藏ハ因曼荼羅ニシテ下部ニ近キカ故
ナリ、

○壇圖

問曰壇ノ圖ヲ見ルニ壇ハ方ニシテ、而シテ

供具ヲ圓ニ備フルコト如何 答壇ノ方ナ
ルハ則チ息災增益合壇ノ意ナリ、供具ヲ圓
ニ備フルコトハ此法ハ息災ヲ本トスル故
ニ、又ハ所求ノ圓滿ヲ表ス、

問曰壇ノ寸量如何 答無畏ノ軌ニ曰ク「二
肘圓壇」

問曰壇上ニ一ノ瓶ヲ置クコト如何 答此
レニ淺深ノ二説アリ、謂ク淺略ハ一瓶ハ圓
壇相應ナリ、深祕ハ此瓶ハ即チ軍荼利ノ三
形ナリ、軍荼利ハ降伏ノ尊ナリ、而シテ此尊

ノ三形ヲ天尊ノ後口ニ置ク此レ祕事ナリ、
其レ深ク之ヲ憶ヘ、

問曰蘿蔔酒團ノ三種ヲ供スルコト如何
答此三種ヲ三毒ノ煩惱トス、謂ク團ハ貪煩
惱ナリ、智度論第七卷丁十七ニ之ヲ食スル者
ハ姪食熾盛ナル因縁ヲ擧ク、蘿蔔ハ瞋煩惱
ナリ、其味ヒ辛キカ故ニ、酒ハ癡煩惱ナリ、飲
メハ輒チ迷亂スルカ故ニ、蓋シ今ハ三毒即
三轉ノ義ヲ明ス故ニ之ヲ用ユルナリ、
○神供法目錄ニ之ヲ載スト雖モ、既ニ護摩

法ニ於テ授ケ已ル故ニ茲ニ之ヲ略ス、

○施餓鬼

○佛說救拔焰口餓鬼陀羅尼經空不

○施諸餓鬼飲食及水法空不

此法ハ前掲ノ經法ニ依テ之ヲ修ス、

問曰此法ノ起因如何 答焰口餓鬼陀羅尼
經ニ曰ク有、一餓鬼名曰焰口、乃至住阿難前
言阿難曰、却後三日汝命將盡、即便生此餓鬼
中、此時如來說此軌也、

問曰袖書ノ儀軌ハ何レヲ指スヤ 答未タ

知ルヲ得ス汎ク尋ヌヘジ、
靈祇トハ謂ク靈魂神祇ノ言ヒナリ、等ト
ハ婆羅門ヲ等スルカ、淨處トハ人ノ曾テ
行ク無キ所ノ水邊或ハ樹下等ヲ云フ、桃
柳石榴此等ノ樹ハ咸ナ鬼ヲ伏スル所ノ功
能アリ、千手陀羅尼經ニ桃柳石榴ノ枝ヲ以
テ、魔鬼ヲ伏スルコトヲ説ケリ、和淨水ニ高
雄ノ口決ニ曰ク「此水ハ是レ布施アリ、水ハ
一切ノ物ニ遍シテ周子キカ故ニ之ヲ檀ニ
喻フ」御口ニ曰ク「餓鬼ノ饑渴ハ甚シキ故ニ、

水ニ和セサレハ受用スルコト能ハサルナ
リ」銅器白瓷等ハ皆儀軌ノ説ナリ、向東
方ニ而施ス東ハ檀波羅蜜ノ方位ナリ、故ニ施ヲ
行スルニ彼ノ方ニ向フナリ、薄雙決ニ四分
律攝批第十四卷ノ文ヲ引テ曰ク「佛言我佛
法中有六方所謂六波羅蜜東方即是檀波羅
蜜乃至東方屬衆生心若有衆生等能供養彼
檀波羅蜜則爲增長壽與財」此レ其明證ナリ、
或居或立本軌一ニ曰ク「立坐亦得作法」此
レ本説ナリ、開心祕決ニ曰ク「石上ニ施ス片

ハ居シ、棚ニ施ス片ハ立ツ、此ノ如クナル故
ニ居立宜キニ随フヘシ、人定時行之人定
時トハ亥ノ刻ヲ云フ、此刻ハ鬼神勢力ヲ得
此レ鬼神ノ食時ナリ、

○次淨地

○次淨土變以上ノ二種ハ儀軌ニ説カス、薄
草決ニ辯解アリ、

○次普集餓鬼印印言共ニ本軌丁ニ出ツ、但
シ招クコトヲ言ハス、御口ニ曰ク先ツ右ノ
手ニテ食器ヲ把リ、此レテ左ノ手ニ移シ持

テ、右ノ手ヲ普集ノ印ニ作シテ、外ニ向フテ
言ヲ誦スルコト七返、而シテ後チ風指ヲ以
テ招クコト三度

○次開咽喉印言共ニ本軌丁ニ出ツ、但シ本
文ハ少異セリ、或説ハ全然今ニ同シ、今ハ之
ニ依ル、而シテ軌ハ一呪一彈指ナリ、御口ハ
言三彈三ナリ、近代ノ口決ハ言ヲ誦シ已テ
而シテ三タヒ彈ク、

○次取食器居手誦偈此レハ本軌以下ノ文
ニシテ、全ク淨嚴ノ施餓鬼作法ニ出ス如シ、

今ノ文ハ軌ニ廣略二偈アル中ノ廣ニ依テ
要ヲ抽ツルカ、御口ニ曰ク印ハ妙鈔ノ朱書
ヲ用ユ、大指ノ腹ヲ以テ中指ノ甲ヲ摩ツル
ナリ、先ツ摩テ、後ニ彈指ヲ作ス、此ノ如ク
三度シテ、次ニ印ヲ食器ニ向ヘ明七返ヲ誦
ス

○次五大願常ノ如シ軌ニハ之ヲ出サス、
○次結前印等 觀文ノ中ニ得摩伽陀國七
七斛食西域記第八卷ニ曰ク「摩揭多國稻種
其粒龐大香味殊越光色特甚彼俗謂之大人

米」七七斛或カ曰ク七七四十九斛カ此說
不可ナリ、今ハ加持飯食ノ呪力ニ依テ、一斛
毎ニ各々七斛倍增スル義トス、是レ眞言ヲ
七返誦スル故ニ七七斛ト云フナリ、軌ニ曰
ク「誦此呪一七返一切餓鬼各各皆得摩伽陀
國所用之斛七七斛之食食已皆得生天」此其
明證ナリ、

○甘露陀羅尼印言共ニ本軌三ニ出ツ、

○水輪觀御口ニ曰ク右ノ手ノ五指ヲ垂レ
下タス勢ハ鈴ノ印ニ似タリ、掌ノ内ニ鏡字

ヲ觀スルナリ」注勿近殿基階御口ニ曰ク
「堂塔ニハ皆守護神アリ、是ヲ以テ小鬼等ハ
此ニ近キ難シ故ニ爾云フナリ、

問曰五如來ノ列次ニ如何ナル義趣カアル

答祕藏記本丁七ニ曰ク「施餓鬼、義寶生如

來南方佛ノ妙色身東方佛ノ甘露王如來西方佛ノ

佛廣博身如來、中央佛也離怖畏如來北方佛也

佛尼夫所以不列、中東南西北列南東西中北者

其餓鬼者依慳貪報受醜陋形困飢餓苦寶生

如來者平等正智用福德身也先以布施退除

慳貪故以寶生如來居第一妙色身如來者四

智中尤近理大圓鏡智用萬德圓滿妙色具足

也既退除慳貪可受殊勝妙果是故妙色身如

來居第二甘露王如來者妙觀察智用說法身

也甘露是妙法故既受妙果堪爲法器便可授

法是故以甘露王如來居第三廣博身如來者

法界智用周遍法界身也既聽授妙法可使其

咽喉開寬身體廣大是故以廣博身如來居第

四離怖畏如來者成所作智用變化身也經六

道四生界爲一切衆生作諸事業無怖畏也既

得廣博身可令其身心安樂無怖畏是故以離
怖畏如來居第五

功能ノ文ノ中ニ弘法大師御口決等ノ文ハ
正ニ本軌丁六ノ説文ナリ、

○次發菩提心本軌ニ載セス、金剛合掌ヲ用
ユ、

○次三昧耶戒本軌丁五ニ説ク、而シテ印合掌
ト云フ、即チ金合ナリ、

○次光明眞言作者ノ私設ナリ、

○次唱三歸、或ハ唵僕欠ヲ用ユ、

○撥遣本軌ニ出ス、七返常ノ如シ、洞ロニ曰
ク、彈指ノ音究メテ高カラシムヘシ、鬼類ハ
耳根鈍ナル故ニ、若シ音無クンハ音アリト
念セヨ、此印言ノ功力ニ由テ鬼趣ヲ脱シテ
天上ニ生ス取
品毘沙門天

○毘沙門儀軌一卷不空ノ譯
大師請來

○摩訶吠室羅未那耶提婆羅闍陀羅尼一卷
般
遮
烟
若

○多聞天鈔真並法三宮次第

此天ニ儀軌多シト雖モ本流ハ前記ノ儀軌
等ヲ所依トシテ用テ福德所求ニ修ス、

問曰此天ノ本地身如何 答異說アリ或師
曰ク此レニ總別ノ二種アリ、總トハ大日別
トハ普賢ナリ、法花ニハ觀音又ハ妙音ノ變
身トス、法相ハ初地ノ菩薩トス、

問曰此天ノ得名如何 答祕密藏王呪經ニ
曰ク我爲未來世一切衆生而作大歸依所、最
顯三身名字、一者毘沙門天王護世者二者羯
吒天王三者不思議王示如是三身之名、乃至

雖示如是種種名字、遂爲行者萬德方便之事
現前而以本願名字度衆生、稱是而爲毘沙門
天王護世者、譬如諸佛世尊之於一佛乘別三
乘我亦復如是、薄草決

問曰此天ノ功德如何 答薄草決ニ毘沙門
經第四卷ノ文ヲ引テ曰ク又聞毘沙門天王
名字得無量福德於一切世間無喻所以者何
此天王從左手中涌無量七珍寶從右手中顯
一切法藏隨諸衆生欲賜與一切寶物若聞毘
沙門天王名消滅一切業障令得阿耨多羅三

藐三菩提」

○道場觀野月ニハ之ヲ出サス、野鈔祕鈔ハ
俱ニ之ヲ出スト雖モ今ニ同シカラス、但シ
種三ハ皆同シ、

吠室羅摩拏此天ノ梵號ニシテ則チ新譯ナ
リ、舊譯ニハ毘沙門ト云フ、吠字ニ(ベイ)バ
イノ二音アリ、其中本流ハ(バイ)ノ音ヲ用ユ、
惠琳ノ音義ニ曰ク扶梅ノ反(バイ)宋ノ朝ヨ
リ(ベイ)ト訓ス」寶棒御口ニ曰ク棒ハ軍兵
ノ具ナリ、此尊ハ甲冑ヲ帶シテ猛將ノ形ヲ

現ス、故ニ之ヲ以テ三形トス、棒頭ニ一顆ノ
寶珠ヲ居クハ則チ福德圓滿ノ義ヲ表ス、故
ニ寶棒ト云フナリ」或師曰ク此寶珠ハ一切
衆生ニ福德ヲ得セシムル爲ナリ」著七寶
莊嚴甲冑等形像ノ說經軌一準ナラス、今其
一二ヲ示サハ、集經第十二卷丁八ニハ(身上量
肘著種種天衣、左手申臂垂下執、袷拄地、右手
屈肘擊於佛塔)般若折揭羅儀軌丁ニハ(著七
寶莊嚴甲冑、左手執三双戟、右手押腰、瑜伽護
摩儀軌丁ニハ(坐二鬼上著甲冑、左捧塔、右寶

棒身金色ナ十二天儀軌ニハ坐ニ二鬼上ニ身著ニ甲
冑左ニ塔右ニ寶棒身金色儀此レハ說ニ同シ安鎮
儀軌丁ニハ乘鬼左ニ双腰右ニ寶塔千手觀音法
儀軌ニハ色紺青左塔右杵祕藏記並ニ七集
ニハ身黃色等ト說ク、此餘或ハ天冠ヲ著ケ
上ニ金翅鳥ヲ作クル像アリ、
左手捧塔以眼視之薄草決ニ曰ク御口ニ曰
ク左ノ手ノ塔ハ是レ南天ノ鐵塔ナリ、彼ノ
塔中ニハ一切ノ教法ヲ納ム、此尊ハ佛法擁
護ノ體ナルカ故ニ、彼ヲ捧ケテ眼ヲ以テ之

ヲ睹ルコト甚タ以ヘアルヲヤ、問曰或ハ
塔中ニ寶珠ヲ安シ、或ハ舍利ヲ安ス此義如
何、答御口ニ曰ク當流ノ習ハ寶珠舍利ハ俱
ニ是レ同體異名一種ノ別義ナリ、又能說ノ
人ニ約シテ舍利ト云ヒ、所說ノ法ニ依テ教
ト云フ、人法一體ノ義ヲ甚深トス、故ニ舍利
ハ即チ教法ナリ、問曰或ハ手ヲ以テ腰ヲ
押スコト如何、答御口ニ曰ク此形像ヲ以テ
當尊ノ祕事トス、其身即五輪塔ナリ、五輪所
成ノ深義五大嚴身ノ奥旨之ヲ思フヘシ、故